

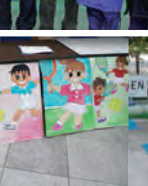
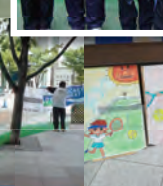
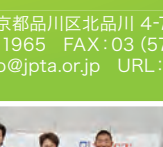


JPTA NEWS

vol. **200** 2014年 1月号

編集・発行 公益社団法人
日本プロテニス協会
広報委員会

〒140-0001 東京都品川区北品川 4-7-35 御殿山トラストタワー1階
TEL: 03 (5791) 1965 FAX: 03 (5791) 1966
E-mail: jpta-info@jpta.or.jp URL: <http://www.jpta.or.jp>





新年のご挨拶

理事長 佐藤 直子



JPTA会員の皆さま、
明けましておめでとうございます。

去年は2020オリンピック・パラリンピックの東京開催が決まるという、私達スポーツを愛する者にとって心ときめく出来事がありました。日本に、2020年という心躍る新たな目標ができました。JPTAもわくわくしながらも地に足のついた活動で、2020年に向かっての道を歩んで行かなくてはなりません。

さて、私達の協会は「日本プロテニス協会」です。この協会の存在する意味、意義を考える時、この「プロ」＝「プロフェッショナル」という言葉の意味の重さを私は感じます。この言葉こそ、日本のテニス界の組織名において唯一私達の協会に付いている言葉だからです。

プロフェッショナルなプレー、プロフェッショナルなコーチング、プロフェッショナルな運営、プロフェッショナルな対応、プロフェッショナルな姿勢…。なぜかこの「プロフェッショナルな」という言葉をつけるだけで身が引き締まる思いがしませんか。私達の協会が目指すところはそこなのではないでしょうか。

しかし、それはとても崇高な言葉であり、とても遠く高いところにある言葉のようにも思えます。

1977年7月プロテニスプレーヤーとなった時のことを思い出します。私がJPTAの初の女性会員となった年でもあります。オーストラリアオープンシングルスでベスト8に入り、全日本プロ選手権(JPTA主催)にも優勝し、「プロ宣言をしたい」と言う私に父は大反対しました。「今の直子のテニスがプロのテニスといえるのか」「プロになったら、あんなテニスがプロのプレーかと言われる」等々、散々に言われました。私は「プロテニスプレーヤーでパーフェクトの人なんかどこにもいない。私は、まだ未熟だけど、『あんなテニスでプロなのか』という厳しい目の中に自分を置いて、これから自分の理想のテニスへと近づけて行きたい。」と押し切ってプロ宣言をしました。父は納得してくれたとは思えませんでした。私が初めての所属契約を結ぶこととなる素晴らしいスポンサーを取ってくれたのは父でした。懐かしい思い出です。

この新たな2014年、「プロフェッショナル」という言葉を誇りに感じながら、会員の皆さまと共に、私達のJPTAをプロフェッショナルな協会に磨いて参りましょう。

末筆ながら、皆様のご健勝とテニス界の発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶いたします。



200号記念 増田副会長インタビュー

JPTA NEWS200号記念 副会長突撃インタビュー!!
今回はJPTA NEWS200号記念として、当協会増田宗昭副会長と
佐藤直子理事長のスペシャル対談をお届けします。

佐藤) 本日は、お忙しいところインタビューにご協力いただき誠にありがとうございます。
よろしくお願いいたします。

❖ 副会長就任について

増田) いやあ、副会長だから少しは協力しないと…と思って。

佐藤) 本当によくJPTAの副会長を受けてくださいました。数年前のゴルフコンペで一緒にグループになった時に赤い糸で結ばれたと信じています。

今、日本のテニス界は2020東京オリンピック・パラリンピックが決まって、その目標に向かって盛り上がっています。実は日本がオリンピックで初めてメダルを取ったスポーツはテニスだったのですよ。ご存知でしたか？

増田) へえ。知らなかった。

佐藤) 1920年のアントワープオリンピックで熊谷選手がシングルスで銀メダル、熊谷・柏尾組がダブルスで同じく銀メダルをとりました。残念ながら私の時代テニスはオリンピックの競技種目ではありませんでした。

増田) それは残念でしたね。でも、テニスがまたオリンピック競技に入って良かったですね。

❖ 経営について

佐藤) さて、テニススクールを経営されている会員の為に少し経営についてお話をお伺いします。まず、増田社長が経営者として一番大切になさっていることがあれば教えてください。

増田) やっぱり『ビジョン』と『価値観』かな。企業ってカンパニーって言いますよね。日本語にすると“仲間”って意味もあります。仕事って一人でもできるじゃない？テニスも一人でもできるよね？私の仕事も一人でも出来る部分もあります。でも、一人では、絶対にできない仕事がありますよね？だからチームを作ります。そのチームが法人になった時にカンパニーとなります。そして同じ目的を達成する為には共有の『ビジョン』が必要だと思います。単にみんなで何かしようとしても、バラバラだったり継続性もなかったり、ではなくて、同じ『価値観』や『ビジョン』があればベクトルが同じ方を向きますね。

例えばどこかでお客様から「CCCの人は…」と言われるとします。社員が共通の『価値観』や『ビジョン』を共有する事で「CCCの人は約束を守る、時間通り来てくれる、お客さんを大切にしてくれる」というイメージが社員・会社のイメージとなるわけです。暗黙の期待値として表れている企業イメージやブランドを裏切らないように、また企業として何を大切にしているのかという事、集団で仕事をする時の目標も重要視しています。

佐藤) 信頼が大切ですね。

増田) 結局企業として何を大切にするかが重要だと思います。長く築いてきた歴史の中で何を大事にすべきなのか、何を目指しているのか。例えば利益を追求するべきか、社会貢献なのか、誇りを持つことなのかとか会社やチームにとって何を大切にするかが必要ですよ。

佐藤) 良いお言葉をいただきました。

プロ協会のビジョンは？とよく質問されるんですが…

増田) ビジョンなんて思いつきでいいんじゃない？

佐藤) それではCCCさんのビジョンはなんですか？

増田) 「世界一の企画会社」になること!!

佐藤) 決まっていますよね。

増田) “企画”という行為を通じて世の中を面白くする事!! 例えば“TSUTAYA”という企画を作り“Tカード”を生み出して世の中を面白くしていく事。

佐藤) それは面白そうですね!

増田) 自分たちで新しく何かを生み出すことが大切です。そのことを忘れないようにしています。また、それらをすることにより『世界一の企画会社』になることが一つのビジョンです。

会社を大きくする事より『世界一の企画会社』になることが大切だとするならば、私たちは企画が売れる人達にならないといけないよね。でも、プロセスの中で、会社を大きくする事や給料が上がる事の方が人間って楽しいからね。みんなそっちへ行きがちなんです。

佐藤) 企画は楽しいですね?

増田) 企画は苦しいよ。テニスと一緒に。勝ったら楽しいけど勝つまでが苦しいじゃないですか。だからそこを我慢できるように「ビジョン」も大切です。私たちのビジョンを再確認して、もう一度自分を鼓舞しています。

佐藤) そのビジョンは創業当時からでしょうか?

増田) 創業当時からです。私は10年程サラリーマンをしていましたが、ビジネス社会では競争がありますよね。絶対負けてはいけなかったと思っていました。そうすると必然的に一番にならないとだめだね。

佐藤) そこはテニスと似ている部分がありますね。





TSUTAYAについて

佐藤) 増田社長の企画の出発点となったのが「TSUTAYA」とお伺いしておりますが、創業当時(30年前)はどんなことがきっかけで始められたのでしょうか。

増田) サラリーマン当時ファッションビジネスを担当していました

佐藤) だからおしゃれなのですね。今日もとっても素敵です。

増田) プロテニス協会用です(笑) さっきまでジーパンだったんだけど、着替えてきました。(笑)

佐藤) ありがとうございます。

増田) 当時の社長が生活提案、ライフスタイルの提案をするんだとおっしゃっていました。私は洋服を通しての生活提案には限界があると思っていました。

デザインされていない洋服(モンペとかパジャマ)とデザインされている洋服の違いってありますよね。ファッションビジネスが日本に生まれて、売れ始めたけど、そのうちみんなファッション化され、人は何を軸に物を選ぶのかと考えた時にそれは好みだろうと。そして好みってどこから来るのかと考えた時にそれは生き方だと思いました。その人の生き方にふさわしいファッションを選ぶことになっているのだと自分なりに分かったんです。ブランドにもそのイメージがありますよね?

増田) 本当の生活提案というのは洋服を買う前段階、すなわち自分がどう生きるのかということを決めるというプロセスがあって、そのプロセスを支援する店が要るんじゃないかと思いました。なぜかという、ファッションはファッションのお店があって、メガネはメガネ屋さんがあるから、自分のライフスタイルを束ねる店が必要だと思ったんだよね。

佐藤) すごいですね。それを実行したのですね。

増田) 人はどうやって自分のライフスタイルを選んでいるのかというと、本や、雑誌を読んだりして、これ素敵だなって思ったり、歴史上の人物に例えて見たり、私の場合は家康でもなければ秀吉でもなく、ベンチャースピリットのある信長タイプかと思い、自分なりに生きざまを決め、信長的な生き方にしたいと思いました。という風に映画、音楽や本に影響されることが多いと思いました。

私は昔から、ユーミン(松任谷由実)の音楽が好きで、メロディーと歌詞でその場のライフスタイルが見えるんです。そのイメージを実現させる為に車を買ったり、洋服を買ったりしてライフスタイルを選ぶという事を人は無意識に探していると思います。

当時、本は本屋、レコードはレコード屋、ビデオはビデオ屋に行って共感する事を探してライフスタイルを定めていると思いました。なので、ひとつのところで全てが揃うと楽しいですよ?それがTSUTAYAを作ったきっかけです。簡単なことなんです、そういう店があったら楽しいでしょ?という事なのです。TSUTAYAは楽しいでしょ?

佐藤) 楽しいです。そこにいて飽きないですよ。

増田) それで良いんです。時間つぶしで良いんです。私は人生とは暇つぶしだと思っています。いかに楽しく暇つぶしをするかだと思います。

佐藤) 今楽しいですか?でも忙しいでしょう?

増田) めっちゃ楽しいです。忙しいと思う事はないです。

佐藤) 偉いなあ!!

増田) それは物の考え方。

佐藤) そうですよ。楽しめないよね…。

増田) 忙しいって心を亡くすって書くじゃない?時間があるかないかと言っても時間の流れはみんな平等に1日24時間なのです。その24時間に感謝できるかどうかだと思います。感謝を忘れると心を亡くします。

佐藤) なるほど…。素敵ですね。

増田) ありがたいと思えば良いんです。こんな人に出会えてありがたい、こんなところに来ることが出来てありがたい、私を求めていただいてありがたいと思います。忙しいって最高ですよ。

佐藤) テニスをするのがとても嬉しくて、最近は絶好調です。今日は素敵な方々にお会いできて嬉しいです、人生ときめていた、素敵なお話を伺えてやる気ができました。理事長やる気が出ました!(笑)

増田) 私はいつも思うのですが、出来ない時や上手くいかない時に人は成長すると思います。練習もそうですよね。

佐藤) そうですね。思うようにいかない事がありますよね。「絶好調!!」とかいうとだめですよ(笑)



テニス界について

佐藤) 「今テニス界に必要なこと」は何でしょうか?

増田) う〜ん。私が思うのはやっぱりスターかな。みんなが関心を持たないといけないうね。

プロテニス協会をビジネスとして考えるとやはりマーケティングが必要なのかな。また、コーチビジネスを考えた時に思うのは、ゴルフのプレーヤーとキャディーさんとの関係の様に成功報酬なののでしょうか?テニスもそのケースはありますか?

佐藤) そうですね。ありますね。

増田) 本来ならばそれが理想ですよ。当社もそれを採用したいと考えています。なぜならば企画担当者は普段会社に出勤するだけではなく、常日頃からアンテナを張って新しい情報を収集するのは本当に大変だと思うからです。

企画に必要なのは『価値観』や『ビジョン』。それからもう一つ必要なのは目標です。何をゴールに設定して集団を動かすのかを考えた時にプロテニス協会に必要な切り口のひとは報酬なのではないかな。

プロテニスプレーヤーの報酬は試合の賞金以外にもスポンサーとかがついてスポーツ業界の中ではどれくらいに位置しているのかな?

昔、テレビでバスケットボールのマイケルジョーダンが、年間100億円を稼ぐというニュースを聞いたことがあります。テニスプレーヤーに関してはあんまり聞いたことないですよ。

佐藤) フェデラーやシャラポバはスポーツ選手長者番付に名前があります。日本の選手はまだ難しいですね。

プロ協会と能登町が協力をして25,000ドルの駆け出しの選手が多く参加する「能登国際女子オープンテニス」を開催しています。昔、シャラポバが15才の時に、能登国際と同じ25,000ドルの草津国際女子トーナメント(2002年)で優勝し、背の高

いかわいいロシア人が優勝したとすぐ日本中に広まりました。そして次の年(2003年)のジャパンオープンにワイルドカードで出場して優勝し、その次の年の(2004年)ウィンブルドンで優勝しました。世界に羽ばたく為に25,000ドルの試合も大切です。

増田) 技術的な指導だけではなく、ビジネスモデルを選手に教えてあげることも必要なのかもね。

佐藤) 昔、ボリス・ベッカーが同じく17才の時にウィンブルドンで優勝しました。準々決勝で勝った時に、スイスの時計会社でしたでしょうか…。スポンサー契約として、試合に時計をしてくれと言われ、当時、試合に時計をするかしらないかと話題になりました。

結局彼は腕時計をして試合をして優勝したんです。準決勝と決勝にはその時計が写っているので良い宣伝になったと思いますよ。

増田) すごいですね。それを最近やったのはラファエル・ナダルですね。時計の軽さをアピールするにはテニス選手が一番という事になり約13グラムと超軽量かつ耐久性の高さが話題となりました。

約5,000万円位するらしいですが。それを身に付けて試合をしていましたよね。稼ぐことも必要だと思いますが、女子ゴルフも試合を魅せる事にも気を遣っているように思います。またシャラポワの様に人を引き寄せ魅せる事が出来る選手が必要ではないでしょうか。

マリア・シャラポワもメチャクチャお金をかけていますよね? プロポーションの維持や洋服とかにも…。しみ抜きに1個1万円ととっているんじゃないですか? だってアップに耐えられなきゃダメでしょ? 最近はレタッチできるけどね。

佐藤) テニスの場合には実際に見られちゃいますけどね。ところで増田さんなぜしみ抜き1個1万円という価格をご存じなのですか?

増田) 私しみ抜きをやっていますから!!

佐藤) 以前、しみ抜き1個が1万円というのが選手の中で話題になり少年時代の松岡修造君が「直子さん良い事を思いついた! シミ全部つなげたらどうですか?」って。もう本当に笑っちゃいますよね。だからすごく印象に残っています。

女性はやはり見た目も気にしますよね。私が初めてツアーに出た時に、当時、ユーゴスラビアのヤオソベックという選手がカーテンからちょっと覗いて、「今日はテレビがあるわ」って言うってお化粧を始めたんですよ、その時私はプロってそういうものだと思って私はそれから試合の時もお化粧をするようになりました。数年後に帰国した時、「化粧なんかして佐藤は色気づいてもうダメだ」と言われました。



❖ 復興支援について

佐藤) 来年度プロ協会にて東北の復興支援をします。東北の方々のお役に立てればよいと思っています。CCCさんも復興支援をされていますよね?

増田) わが社も震災の直後にいろんなことをやりましたが、私たちはプロとして、良いお店を作ることが結果として復興支援になると思っています。宮城県多賀城市に大きな図書館を作ります。佐賀県武雄市の図書館が有名になり、支持されているのですが、それを知った多賀城市の市長が視察に行き、要望があり今準備を進めています。また、「こどものみんなの家」と呼ばれる子供たちの遊び場となる施設を、建築家の伊東豊雄さんに設計していただき建築いたしました。色々やっていますが、基盤になることを作るのが一番の復興だと思います。だから楽天は野球で復興支援をしたので本流ですよ。仕事を通じて復興支援が出来るのが良いと思います。

佐藤) 私たちもイベントを東北で行う事によって、テニスの力で少しでもお役に立てる事、そして夢を持ってもらい東北から選手が育つきっかけになる事を願います。

❖ 増田社長の最近のマイブーム

佐藤) 最近のマイブームを教えてください。以前はゴルフでしたよね? 「ベンチャーは冒険だ〜!!」とおっしゃってドライバーを打っていらしたのを覚えています。

増田) すいぶん前ですよ。最近のマイブームは、「食」かな。もっと言えば人生を楽しむことかな。私は、仕事に対して絶対に負けちゃいけない、負けない為には大きくする、大きくするとういう風に人とのしがらみが沢山できて、やらなきゃいけないことが沢山増えて、人生を楽しむことをしていないなあと思っています。もちろん楽しんでいるけど仕事の中に楽しみを見出しています。「食」も今、私にとっては仕事をするためにカロリー補給の為の食事なんです。だから朝はファミリーマートのサンドイッチだし、すごいファストフードなんです。5分~10分くらいで済ませてしまいます。

佐藤) Tポイントを貯めるのですね

増田) そうそうそう。(笑) ありがとうございます。お昼は会社の食堂で食べて、夜も一人で食べるときはファミリーマートのおでん。さっと食べます。楽しむためではなくて、次の仕事の為に食べておかなきゃいけないと思って食べています。実は今日も5分くらいでパンを食べただけです。

先日イタリアに行った時に感じたことは、イタリア人は楽しむために働いていますよね。

佐藤) そうですよ。ヨーロッパの方はそうですね。

増田) 私も企画会社で人生を楽しんでいるつもりだったけどやっぱり人生の楽しみ方は彼らにまだ及んでいないと思いました。そうすると「食」って結構楽しいなあと思って自分で作ってみたいと思いました。





佐藤) え〜作る!! 何を作られるんですか?

増田) いやいや作れない!!から。時間的にないとかみんなに言われるんですけど、マイブームとしては「食」を楽しみたいと思いました。まず作れるようになるために、食器を買い揃えて、キッチンを造ってという風にね。

佐藤) お料理は最後の片付けまでがクッキングですからね。食器も凝りそうですね。

増田) 私は次の段取りまでやって終了にしています。仕事もそうですが、すべては定位置で決まった場所に決まった物を置かないと気が済まないです。

佐藤) 紙の書類とかどうされていますか?どンドン溜まってしましますよね。

増田) 佐藤さんがやっている仕事は企画だと思います。企画の為に情報が必要です。なぜ情報が必要かという企画は情報と情報の組み合わせです。

「企画＝情報×情報」という事です。しかも情報の質と量は多ければ多いほど良い企画が生まれるという訳です。だから一生懸命集めます。それが紙ベースで集まると鞆の中や部屋の中があふれてしまいます。

絶対そういう風にならないようにする為のキーワードは2つ。一つ目は「整理」二つ目は「整頓」。

佐藤) そのふたつ一番苦手な部分です。

増田) 往々にして日本人は整理整頓とまとめて使いますが、整理と整頓の正しい意味を理解していない人が多いです。整理ってどういう意味か知っている?整頓は?

佐藤) 同じ意味ですね…。

増田) たとえが悪いかもしれないけど…。人員整理と言いますよね?でも人員整頓とは言わないよね?

要らないものを捨てる事を整理と言います。必要と思われる情報を集めたら、瞬時に要る物と要らないものを判断します。

佐藤) 断捨離ですね。

増田) 要らないと決めたらすぐ捨てるかシュレッダーします。それが終わると必要な物だけ残りますよね?必要な物だけ残ったら整頓します。整頓とは必要な時にすぐ出せる状態にすることです。だから頭の中の構造、または自分が抱えているタスクに全部見出しを付けます。そうすれば今の自分の関心事、集めたい情報とかやらなきゃいけない仕事とか、取っておく情報は該当項目毎に資料がまとまり、情報はファイリングされていることになります。

頭の中ではひとつのことしかしていない、例えば、スケジュール帳には今日のこの時間は取材を受けると書かれますけど、実はマルチタスクで色々な事を同時進行で行っています。自分が意識していないだけで、社員に話を聞かせることによって、教育をしていたり、ご飯を食べながら打合せをしたりするもの

そうですね。いかにインデックスを使って情報を整頓するかが必要ですね。

佐藤) 今日から頑張ります。すごくきれいになると思います(笑)。

続いてTカードについて伺います。

たくさんのポイントカードがひとつのカードにまとまれば便利になると思って「Tカード」を作られたとホームページで見ましたが、今後はどう展開していくのでしょうか?

増田) 今後はデジタル化していくことになると思います。今はカードの中に入っていますが、今後はどこにでも入ると思います。

佐藤) 貯めるのが楽しいポイントだったり、自然に溜まるのは魅力ですよ。

増田) 「Tカード」の「T」はテニスの「T」だからね(笑)

佐藤) そうだったんですね(笑)

副会長に就任されて2期目となりますが、今後JPTAに望むことはありますか?

増田) やっぱり常に「プロ」を意識した協会であればいいなと思います。

佐藤) それでは最後の質問です。私達は、会員に愛され、誇りである協会作りを目指しておりますが、創立40年を超えた今、日本各地に在住・在勤する会員に対して事務局は東京に一箇所のみに、執行部と会員の距離間を埋めることがいつも課題となります。増田流のアドバイスを、何かひとつ頂けますでしょうか。

増田) コミュニケーションというのはもちろん、リアルにこうやって直接会う事も必要ですが、今はネットもあるし、お互いに情報を発信していくことが良いのではないのでしょうか?

ただ、なんでも情報を流せば良いのではなくて、情報を整理して流すことが事務局には必要だよ。情報の共有についてのキーワードは『情報とは出来事をその場にいない人に伝える事』。かつて、一日の情報を「自分の一日」として文章化した人がいて、目から入る情報全てをまとめると、その総数は文庫本26冊分になったそうです。たった一日でだよ。でも実際には毎日26冊の文庫本を読めませんよね?だから本当に大事なことだけを切り取ってまとめていることが必要なんです。

佐藤) なるほど!よくわかりました。本日は本当に素晴らしいお話をありがとうございました。



プロフィール

増田 宗昭

生年月日: 1951年1月20日

出身地: 大阪府枚方市

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 (CCC)

代表取締役社長兼CEO

JPTA NEWS ～200号記念号～

JPTA NEWSのあゆみ

「コーチの会報告書」～「コーチ部からの報告」～
「コーチ会だより」～「JPTA NEWS」

本誌JPTA NEWS は、昭和53年（1978年）日本プロテニス協会の活動の中で「コーチの会報告書」として誕生し、平成26年（2014年）の本号において記念すべき200号を迎えることとなりました。協会設立からの40余年を振り返り、今後のさらなる発展を願って、「JPTA NEWS」の原点である「コーチの会報告書」の作成メンバー、および「JPTA NEWS」100号の編集長に、現編集部が当時の様子を伺いました。



金丸：今回の「JPTA NEWS」が第200号記念号となります。本日は創刊号から100号までのお話や創刊される際の経緯等、先輩の皆様に協会設立当時のお話をお伺いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

渡辺：全部揃ってるの？よく残っているね。

金丸：澤田誠会員より寄贈いただきました。

コーチの会報告書の誕生

金丸：これは「JPTA NEWS」の前に発行されていた『コーチの会報告書』ですが、当時、1978年（昭和53年）はどちらで作成されていたのでしょうか？

平野：ガリ版（※1）刷りだよ。私が機械を買って持っていたのでそれを使って作って、文章も「〇〇しませう」とか、旧仮名遣いを遊びで使ったりしていました。

渡辺：平野君は、オンコートのレッスンが終わったらスクールの生徒さんにも分かるように資料を作成し、印刷して渡していたりしていたよね？

平野：そうだったけどもう忘れた！！

金丸：『コーチの会報告書』は、当時、議事録のような役割をしていたのでしょうか。

平野：ちょっと待ってね。記憶がもう霧の彼方だよ…。いつのことだった？1978年（昭和53年）か…。

渡辺：それが第1回？

金丸：はい、そうです。

…NEWSを見ながら…

田村：その次に「コーチ会だより」として平野さんがずっと作られていて…。あ！私が入る前のからあるね…。

金丸：当時はどなたに向けて発行していたのでしょうか。

渡辺：会員と研修に参加した生徒さん（コーチ）に、です。軽井沢とかで渡していたよね？

榎垣：この頃から、研修をすることになったと思います。

渡辺：そうそう、研修をすることになって、当時の講師は石黒流、柳流、渡辺流と色々あったけど、研修の担当者は研究熱心の平野流に満場一致で決まったよね？

平野：そうだったね。

渡辺：本当に平野君は研究熱心の理論派で、（動作）こんな変なボールも打つけど、分析して一番よく勉強していたから、平野君がいいよってみんな大賛成だったよね。こっちは（野球の）長嶋選手みたいにボールがきたらこうやって打つんだって感覚で教えていたけど（笑）、対照的な研修をやっていたよね、当時は…。

平野君の研修は本当にすごかった。全部分析して対面してしっかり教えていたよね。それが研修の始まりだよ。

協会設立当時の活動

平野：そもそも、活動方針が何もない時に、プロ協会として何をするかという話になり、当時、有志数名が何回か集まって話し合い、今では核となる4つの方針をつくりました。1つ目、コーチ部盛りみたいな刊行物をつくること。

金丸：すぐに形になったのが、『コーチ会だより』だったのですね。

平野：そういうことです。

金丸：そして第31号から「JPTA NEWS」となり、創刊号となるのですね。

渡辺：それは何年？

金丸：1983年（昭和58年）です。これから田村さんが担当されていたのですね。

田村：書くのが大変だったので印刷にしました。なんで私がやることになったのかは定かじゃない…。

平野：僕がやります！！とか言ったでしょ。

田村：やっぱりそうかな？

金丸：ここから印刷になりましたね。

…NEWSを見ながら…

田村：当時はやり方が全く分らなかったんで、今でいう原稿用紙の様な専門の用紙に文字数を確認して縦何文字横何文字かを一字ずつ文字数を確認していました。パソコンとかじゃないから大変だった。そして幾度もの校正・印刷業者との打合せを通して印刷が出来上がり、それを各会員個人の封筒へ詰めて、郵便局へ持っていき、別納のスタンプを押して発送していました。かなり大変な作業でした。





平野：活動の2つ目は、トーナメント（試合）をしようということになり、これが後の『錬成会』。元プレーヤーはみんなスクールをやっていて、（自分以外にも）インストラクターが必要になり、彼らにも試合をする機会を与えようとトーナメントを行う事になったんだと思うよ。そして、3つ目は講師を呼んでの勉強会。

金丸：『コーチ会だより』、『JPTA NEWS』にも研修会の報告が多いのはそれが始まりだったからなんですね。記事も投稿が多かったのですね。

平野：最後のもう一つはなんだったかな。そうそう、後々のテスト。最初はできたらいいなと思いながら始めた4つ目の活動がテスト（資格認定）。資格認定の計画としては、1年くらいかけてテストの為に勉強会をすることにしたよね。それが後々のテストとなったのかな？

平野：テストは筆記とテニスの技術。5人組で1人はプレイして残りの4人が後ろでシートを持ってチェックするスタイル。みんな合格だけど（笑）

渡辺：フラット・スライス・トップスピンとかだったよね？

平野：それを1年程やったかな？ 当時は、勉強会やレッスン会を中心にやっていたよね。

渡辺：思い出してきたね。霧が晴れてきたんだな（笑）

平野：プレーヤーばかりだったから、トーナメントをやってベスト4の人だけに資格を与えることも考えていたけど、そんなことで資格を与えてコーチの資質が問われても困るし、それも恥ずかしいからやめました（笑）それからテストらしいことをやっていたと決めました。

また当時、理事をコーチの中から選ぶことになって森金氏と私が理事になり、理事になったのならば何かしないといけないという事になって講習会が始まったと思います。

元プレーヤーを除いたコーチを対象として勉強会を始めたのが講習会となったのかな？

金丸：（それらが）活動の柱になっていったのですね。協会と会員が、密着している感じがしますよね

渡辺：平野君がいなかったらここまでにはならなかったと思う。平野君が骨子を作って考えて行動して、我々は乗っかっていただけだからね。そうじゃなければ、バラバラになっていたと思う。

その時の事務局長って川上さんだったよね？

金丸：そうですね。先日、故ヘックラー氏の思い出を伺った際に、川上さんがはっきりと『JPTAは元プレーヤーがセカンドステージを作っていくために作った』とおっしゃっていました。

渡辺：川上さんも苦労したよね。

平野：きっと川上さんも忘れてるよ。年取ると本当に昔の記憶が閉ざされていくよね。年月が…少し前までは本当に記憶がクリアだったのに…

田村：もっと早く（集まって）座談会をやらなきゃいけなかったね。

渡辺：そう言えば平野君も元々プレーヤーだったんだよ。俺、試合で負けた事があるよね。全日本だったっけ？

平野：全日本はね、私が1セット取った後、あなたの父親の入れ知恵で負けたの。

金丸：それ今なら違反じゃないですか（笑）

渡辺：当時のメンバーは何人位だったっけ？

檜垣：70名くらいじゃないですか？

JPTA NEWS誕生

金丸：『コーチ会だより』から『JPTA NEWS』に名称変更したのはどうしてですか？

田村：コーチ会というのはあくまでコーチの会だったので、プロ協会全体としての情報を掲載する事になったときに変更しました。当時は知識のニーズが経営とかではなくて、技術を上げる為やコーチとして良いレッスンをするためにみんな一生懸命でした。

渡辺：教え方がわからなくてノウハウもない状態だったので、いろんな事に興味があってどんな情報でもありがたかったんだと思うよ。

田村：平野さんが講習会を開催してくれたのでありがたかったです。柱みたいなものを作ってくださったので、学びやすかった。

渡辺：みんなが必要としていた「マニュアル」を平野君が理論的にまとめてくれた。

平野：それが協会として作成したこれ（THE TENNIS）だよ。2回目は漫画みたいな表紙の本、3回目は『テニス教本』を出した。



コーチ会だより



1989. JPTA news



1983. JPTA news



1998. JPTA news

当時は3～4年毎に発行する予定で、4冊目で最終的にまとめられると思ったけど、出来なかったね。

金丸：平野さんはどこから情報を集めていらっしゃったのでしょうか？

渡辺：打法を理論的に解明して、レッスンでは、自分で研究した練習法を上手に伝えていたよね。どうやって打つのが効果的なのかとか。

田村：勉強したことをまとめて記事にしてもらったりしていたよね。

金丸：合宿で何った体の使い方はとても印象的でした。「肩の引き落とし」「腰の引き出し」などは生徒さんに分かりやすい様で、今でも使っています。あれは平野さんが独自に開発された指導法ですか？

平野：そう、かな。

金丸：今はテニス情報誌が多数出ていますし、インターネット等で検索ができますが、当時のコーチは最新の情報の詰まった『コーチ会だより』を楽しみにしていたのですね。

渡辺：モダンテニスがその先駆けだったのかな？協会にあると思う。

平野：記事を書いたこともあるよ。

金丸：「THE TENNIS」、「BEST TENNIS」、「テニス教本」についても、あれだけのものをまとめて作成するのはとても難しいと思います。

平野：昔のテニスは、まず一段階目では、上手に打てるようになるのに時間がかかった。そしてその上にそれらを使って試合をするというのが面白く二段階の魅力があったけど、今の軽くてよく飛ぶラケットは運動神経が良ければポンポン打てるから、打ち方がどうこうって、あまりないよね。例えばこうやって引かなくても良いし、フォアだってこうやって思いっきり引いていた木のラケットの時代とは全然違うよね。

昔からテニスを見ている人や、やっている人はきっと思っていると思うよ。奥の深いスポーツが単調なスポーツになってしまったと…。

例えば、プロ野球が金属バットを使ってやるのと同じだよ。

渡辺：そうだよね。オリンピックもそうだよね。金のかかるスポーツになってしまった。昔はそうじゃなかったのにね。

金丸：以前は一般愛好家やスクール生さんに対しても、打ち方を探求する事を重視したレッスンが主流だったと思いますが、その時点で変わっていったのかもしれないですね。そして…「JPTA NEWS」の記事内容が経営などの話になるのでしょうか？

田村：それはまだずいぶん先だったと思う。

JPTA NEWSの今、そしてこれから…

金丸：檜垣さんは自他共に認める「JPTA NEWS」の愛読者でいらっしゃいますが、以前と比べてどうですか？

檜垣：最近を読んでないけど…というのは先に原稿を確認するので…。

最近は発行を待つ楽しみがなくなりましたが、私は昔から好きでした。昔の方が生の声が多くて楽しく読んでいました。

今はまた、内容が充実していてよくなってきていますよね。

金丸：田村さんはとても長い間編集長をされていたいらっしゃいましたが、思い出や苦労した点についてはいかがですか？

記事の収集に苦労されたことはなかったのでしょうか？

田村：長かったよね…。当時はみんな協力してくれて掲載希望の原稿が続々と送られて来ました。少し落ち着いたところで牧野さんが手伝ってくれて、協会ですることになりました。牧野さんは文章にこだわりがあって、夜遅くまで校正にかかることがありましたが、すごく勉強になりました。

金丸：それまではどちらで作業されていたのですか？

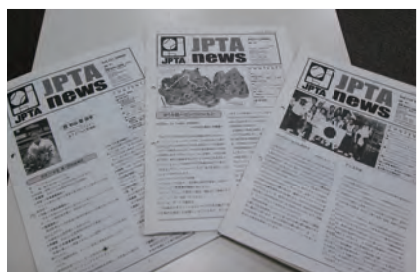
田村：自分の会社でやっていました。

金丸：今、私達も校正にかなり時間をかけていますが、その流れが今でも続いているのかもしれないですね。

檜垣：情報化社会になって、紙面の作成だと情報がすぐに古くなってしまうので、年に4回の発行を現在は2回に減らしています。

金丸：現在は、技術論などは主にナショナルチームの方に執筆のご協力をいただいて掲載をしています。以前の投稿型ではない為、会員が感じる“面白み”には欠けてしまっているのかもしれませんが…。以前の様にドリルを掲載してほしいとの声もありますが…。

檜垣：USPTAの会報誌はドリルが沢山載っていておもしろいよね？日本では、多人数用とかジュニア用とか、目的を持ったドリルが必要かと思います。特にジュニアの育て方などは目的がはっきりしているので良いと思いますが…。



2000. JPTA news



2002. JPTA news



2001. JPTA news



2011. JPTA news



金丸：USPTA退会者も多いので、全員には渡っていませんね。

田村：個人的には、ドリル記事はあった方がよいと思います。コーチたちもドリルに飢えているような気がしますし、コーチになり立ての人には為になると思います。

以前、ドリルに面白い名前を付けてやっている方もいましたよね？

檜垣：「インベーター」でしょ。目的をしっかり持たせて、今も楽しんでやっていますよね。

金丸：ドリルに関しては投稿を募ってみても良いかもしれませんね？

渡辺：せっかく「JPTA NEWS」を作っているんだから、会員みんなに読んでもらいたいよね！でも最近は新聞も読む人が少ないって言われているしね。

檜垣：字を読むのが面倒とも言われていますし…

田村：今は情報が色々あるから、協会独自の何か、コーナーを作らなくてはダメなのかも。

平野：若い人たちに読んでもらえるように、入会10年以内の人の意見を聞いて採用する。

その方が良いと思うな。そうすれば新鮮な感想と意見、注文が出てくると思うよ。

若いコーチの考え方や必要なことが分かってくるし見方が違ってくと思うよ。

渡辺：もっと意見交換会をして、どういうことに興味があるのか等聞いた方が良いかもね。せっかく200号まで続いたから貴重だし…今後あと10年とか20年とかするとかかなり貴重なものになるのかもね。

金丸：そうですね！これからも「会員の皆様にとって価値のある情報をお届けする！」との信念を引き継いで頑張ります。

田村：平野さん、今のコーチに望むことはありますか？

平野：う〜ん…難しいな。世の中が何もかも変わっちゃったし、テニスも変わったからコーチも変わらざるを得ない。

昔の木のラケットのテニスと今のラケットでやるテニスは別物だからね。

渡辺：でもね、私はまさか、私の眼の黒いうちに錦織(選手)みたいに世界ランキング10番近い選手が出るなんて思えなかったよ。だから、これからのコーチには、ますます探究心と向上心が重要だと思う。あんな選手を育てられる可能性があるんだからね。

金丸：皆様、今日はお忙しいところ、ありがとうございました。

□■□■ 座談会参加者 □■□■

渡辺 功 … 協会創立メンバー 現 副会長

平野 三樹 … コーチ会報告 作成者・元副理事長

田村 賢司 … 創刊号・100号 編集長

檜垣 泰章 … 200号 広報・企画推進事業部長

金丸 由紀 … 200号 編集長

(※1)

ガリ版…謄写版は印刷方法の1つ。ロウ紙と呼ばれるロウ紙と呼ばれる特殊な原紙(薄葉紙にパラフィン、樹脂、ワセリン等の混合物を塗り、乾かしたもの)を専用のやすり(鏝盤)の上に載せ、ヘラや先の尖った棒のような形状の鉄を木の軸に固定した器具「鉄筆」を強く押し付けて、絵や文字の形に原紙を傷つけて版を作っていく。「ガリ版」の呼称は原紙を切る作業中に生じる音に由来するが、後述の「ボールペン原紙」「タイプ原紙」「ファックス原紙」を使うものでも謄写版全般にガリ版と呼ばれている。非常に簡易な印刷装置で小型のものは手で持ち運ぶこともでき、原紙とインクさえあれば電気などがなくても印刷可能なのが特徴である。

テニス選手に対する栄養サポート

～食事調査とフィードバックの実際～

エームサービス株式会社
味の素ナショナルトレーニングセンター アスリートヴィレッジ内食堂 SAKURA Dining勤務
管理栄養士、公認スポーツ栄養士、公益財団法人日本オリンピック委員会科学サポート部会員
高橋 文子（たかはし あやこ）

今回はジュニア選手に対する栄養セミナーについて、ご紹介させていただきました。今回は女子のトップ選手に対し行った栄養サポートについて、ご紹介します。

ストレングスを担当しているトレーナーから、選手に栄養指導をして欲しいと依頼がありました。ツアーで結果が出るようになり、試合や練習の強度も高くなっていく中で、疲労回復が課題となってきたそうです。基本的な食事のとり方を指導して欲しいとのことでした。

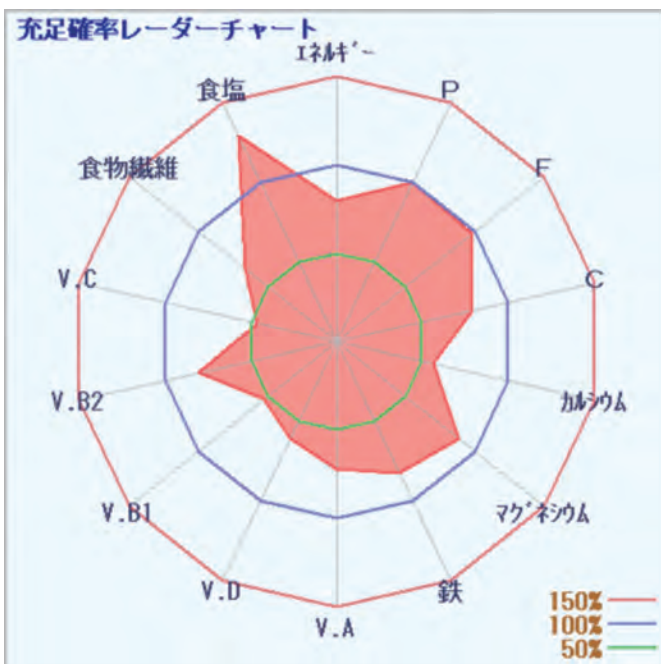
そこで、食事のとり方のレクチャーに加え、国内・海

外での食事写真を送ってもらい、食事内容を分析してフィードバックを行うことにしました。食事のとり方を説明する際、言葉だけではなかなかイメージがわきません。実際に食べた食事をモデルにして、どこが良かった、悪かった、何を改善していくと良いのかなどを具体的に説明することで、実行に移しやすくなると考えています。百聞は一見にしかず、ですね。

【国内】数日間の食事調査結果のレーダーチャート

目標量に対する実際の摂取量の充足率を示しています。図表のPはたんぱく質、Fは脂質、Cは炭水化物です。

まずエネルギーが目標量に達していませんでした。たんぱく質、脂質は目標量に届いていますが、炭水化物が不足していました。また、カルシウムや鉄などのミネラル、各ビタミンも軒並み不足していました。



不足だらけのこの結果を見て、私はA選手の食事はアスリートとして「足りていません」とコメントしました。食事写真をみたときに、まさき感じたことは「食事の量が少ない」ということでしたので、印象通りの結果だったなと思いました。

疲労回復が課題であれば、必要なエネルギーを摂取することが大・大・大前提です。特に主食の炭水化物の十分な摂取は欠かせません。A選手は毎食主食を食べていましたが、量が少なかったのです。食べて欲しい目安量の半分ほどでした。フィードバックの中で必要な主食の量を繰り返し説明しました。

A選手に限らず、主食の量が少ない選手は多くみられます。お腹もいっぱいになるし、あまり食べたら太ってしまうと言うのです。そこで私はお腹がいっぱいとカラダがいっぱいは違うという話をします。お腹がいっぱいは単にお腹が膨れるだけ、カラダがいっぱいというのはエネルギーや各栄養素が必要な量を摂取できていて、カラダが回復する準備ができることだと説明します。2003年国際オリンピック委員会の発表

したアスリートの為の糖質摂取に関するガイドラインでは、運動後、すばやく(4時間以内)回復するためには1時間に体重あたり1~1.2gの炭水化物が必要とされています。1日にシングルスとダブルスが組まれているとき、試合の間にとる炭水化物の量の目安になります。体重50kgの女子選手であれば、コンビニのおにぎり1個(炭水化物35.8g)に果汁100%のオレンジジュース200ml(炭水化物21.4g)でクリアできます。回復期間が1日で中高強度の持久性運動の場合は、1日体重あたり7~12gの炭水化物が必要です。しっかりとトレーニングを行う日と考えてください。体重50kgの女子選手であれば、1日でご飯を750g(1食あたり250g)と果物を200g(毎食みかん1個程度)が目安です。

さて、A選手の話に戻りますが、主食、主菜、副菜、牛乳・乳製品、果物の基本カテゴリーの中で、牛乳・乳製品や果物が抜けていました。牛乳・乳製品と言えばカルシウム!は広く知れ渡っていることかと思いますが、ビタミンB2の摂取源でもあることはご存知でしょうか?ビタミンB2は炭水化物や脂質をエネルギーに変える反応に関わっていて、エネルギー消費量が多い

アスリートは必然的にビタミンB2の必要量も多くなります。また不足すると口内炎の原因にもなりますのでご注意ください(肌あれや口内炎対策で市販されている医薬品の主要成分です)。今回の食事調査の結果から、A選手には3つの提案をしました(フィードバックの原文そのままを掲載します)。

①主食の量を増やす

1食あたり: ご飯200g(〜250g)×3食。

足りない分は、補食で補う。

②牛乳・乳製品(ヨーグルト)を毎食摂取

1日トータル500mlを目指す

③補食時に果汁100%ジュースを摂取する

おにぎりやエネルギーバーをとるタイミングで、一緒に果汁100%ジュースを★

果物の補足になることはもちろん、エネルギー補給(200mlで84kcal。おにぎり1/2個分)

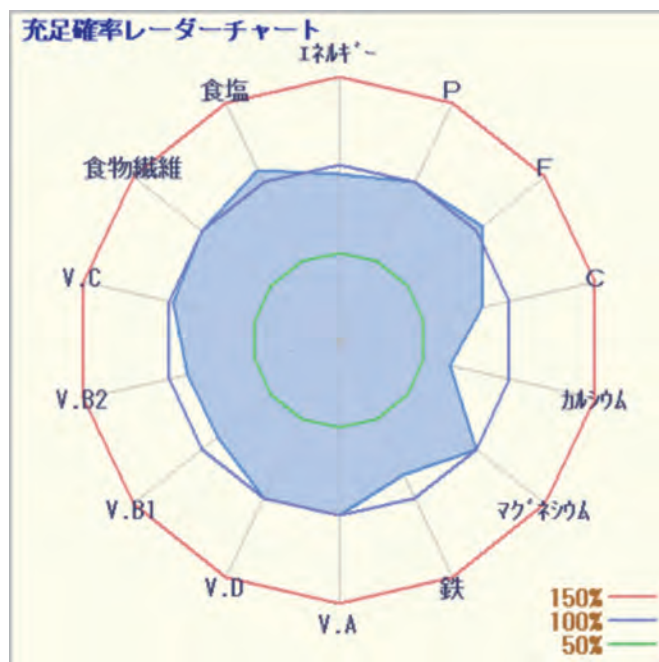
食事や栄養のアドバイスは、シンプルであることが基本だと思っています。食事は毎日のことです。複雑なこと、わかりにくいことを言われても続けられませんから。

【海外】数日間の食事調査結果のレーダーチャート

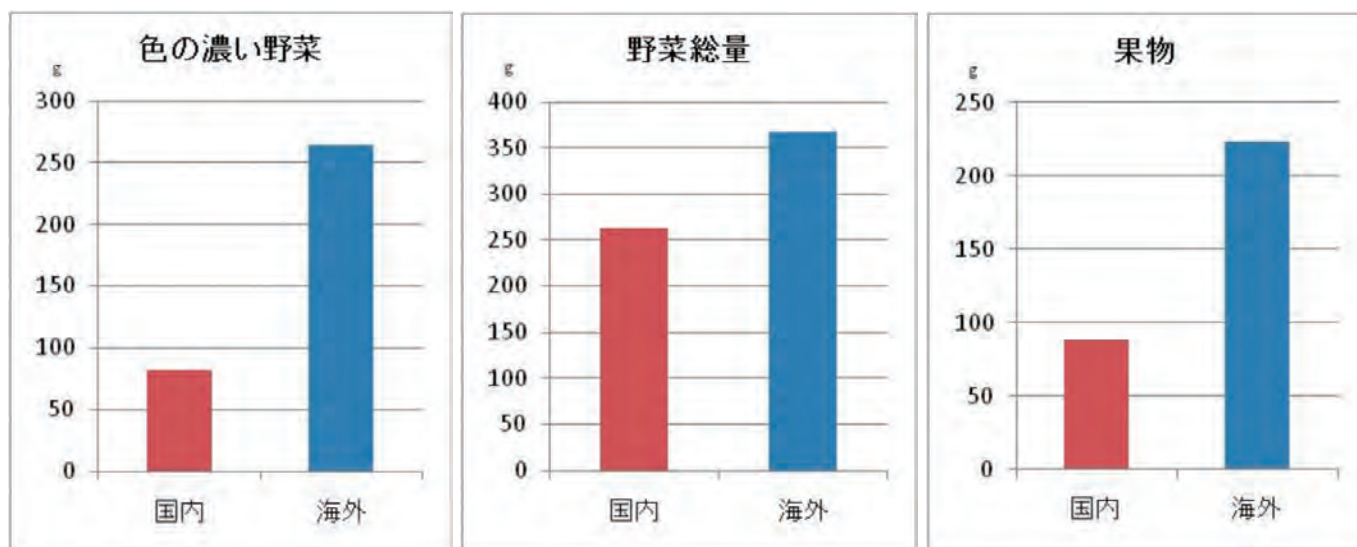
国内のレーダーチャートと比較すると、エネルギーをはじめ、多くの栄養素が目標量に近づいていることがわかります。海外の食事写真をみたとき、いい食事ができていると感じました。トレーナーが帯同していて、果汁ジュースの摂取などを勧めていたそうです。色の濃い野菜を積極的に食べていましたし、果物も頻繁に写真に出てきました。それが数字として結果にも表れました。

国内にいたときよりも、海外の食事の方がよかった例は今までになかったもので、正直驚きました。その大きな要因は環境の良さだと思います。WTAのツアーだったため、昼食のビュッフェがとても充実していました。下部ツアーではなかなかこうはいきません。また、トレーナーの存在も大きいと私は考えています。

このフィードバックの内容はトレーナーとコーチに共有していただきました。選手の食事や栄養について、トレーナーやコーチに関心を持っていただけることはありがたい限りです。



次は視点を変えて、A選手の国内と海外の野菜と果物の充足率（目標量に対する実際の摂取量の充足率）を紹介します。赤の棒グラフが国内、青の棒グラフが海外です。



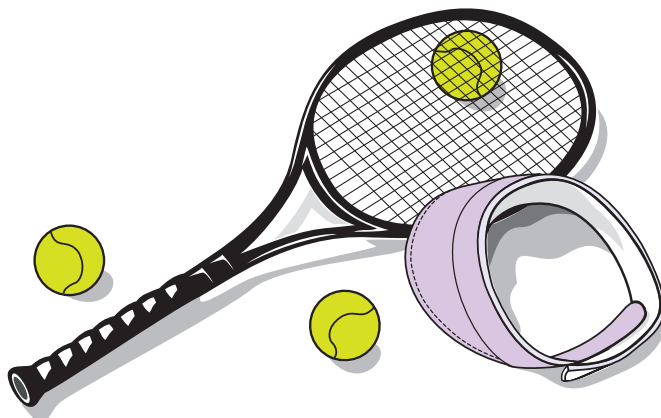
海外では色の濃い野菜を多く摂取していて、摂取した野菜の総量も国内よりも多かったという結果がでました。野菜の摂取量の多さは、そのままビタミン・ミネラルの充足につながっていました。

また、海外では果物（果汁100%ジュースも含む）の摂取が多く、国内の倍近い量を摂取していました。その分、ビタミンCの充足率が非常に高かったです。ビタミンCは強い抗酸化力を持ち、疲労の原因となる有害な活性酸素からカラダを守ります。屋外でプレーすることの多いテニス選手は、日焼けによる酸化ストレスに対処するためにもビタミンCを積極的に摂取してほしいです。ちなみに果汁100%のオレンジジュースとアップルジュースでは、ビタミンCの含有量が大幅に違います。同じ量（200ml標準的な紙パック）を飲んだとすると、オレンジジュースは約80mgのビタミンCが摂れるのに対し、アップルジュースは2mgです。疲労回復を課題とするA選手にはもちろんオレンジジュースを勧めました。

テニス選手は1年中海外を転戦しています。荷物も多く、遠征先から遠征先へ1人で移動することもあり、選手が厳しい環境に置かれる競技の1つだと思います。選手たちは食事だけでなく、長距離移動、時差などさまざまなストレスにさらされながら、試合をこなしています。カラダもココロも相当タフではないと持ちません。食事について言えば、日本食がないと大変ではないですか？とトップ選手に聞いたとき「その土地ごとにおいしいものがありますから」と頼もしい答えが返ってきました。その土地ごとの食を楽しみにできるくらい、好き嫌いがなく、食への意識も高い選手でなければ世界では勝ち続けられないと感じています。

ジュニアの選手が遠征中に体重が落ちてしまったとコーチから報告を受けたことがありました。その選手はSAKURA Diningでは量・質ともにバランスの良い食事がとれており、強くなりたいからしっかり食べると食事への意識も高い選手でした。環境のよいところでできるのは当たり前です。いかに環境の整わないところでも食事の量・質を保てるかが本当の食事力だと思います。今はまだ、その食事力を身につけさせるサポートができていないことを痛感しました。その選手が成長していく過程で、前述したトップ選手のように「その土地ごとにおいしいものがあるから大丈夫！」と言えるくらいの食事力を身につけられるよう、まずはサポートをする私自身がレベルアップしなければならないと思っています。

最後になりましたが、このような記事執筆の機会をいただき、JPTA会員の皆様、JPTA NEWSの関係者の皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



指導技術

技術論

世界基準を見据えたうえでの低年齢の指導

～U14までの子供たちに何を植え付けるべきなのか!?～

(続編No.3)

公益財団法人日本テニス協会本部
ナショナルチームジュニア女子ヘッドコーチ
ワールドジュニア女子代表監督 中山 芳徳



パーフェクトフットワーク (完成度の高いフットワーク)

現代のテニスにおいては、みなさんもお存知のとおり質の高い技術、成熟した戦術、完璧なフットワーク、完璧なフィジカル、メンタルなど、どのプレーヤーも完成度が高く、極端な弱点が見当たりません。その中で、どのように相手に差をつけるのか、優勢に戦うのが大事なポイントです。そしてスピードとパワーだけでは崩せない中、「ゲーム性」という事が多く議論されています。

ゲーム性=相手の崩し方

では相手の何を崩すのか?? 技術的な観点から見ても打点がストロークの全てといっても過言ではなく、それはインパクト時のバランスで保たれています。ですからプレーヤーは、様々な戦術を使って相手をオフバランスにすることにより、ミスヒット (オフセンター) を引き起こし、相手のボールの質を落とさせ、そこから突破口を開いて、フィニッシュに持っていくという一つのストーリーを作ります。

ゲーム性=相手のフットワークを崩す

という定義でもよいのではないのでしょうか?
そのゲーム性を出すには、

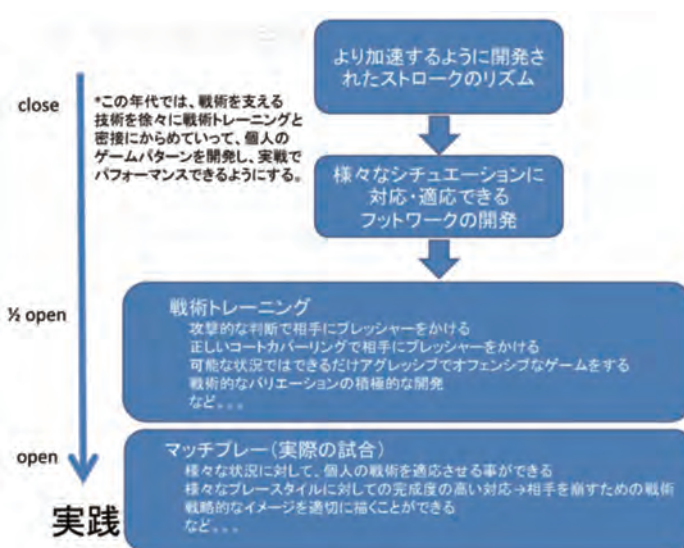


図1

次に、この様々なシチュエーションに対応・適応できるフットワークの種類を、見ていきましょう!

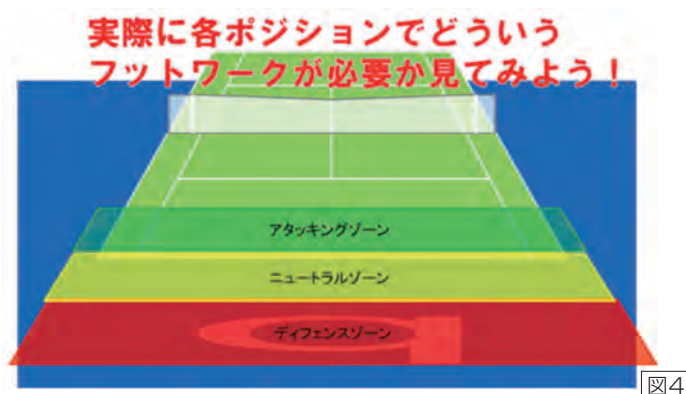
多くの戦術・パターンが存在しますが、それを実現するには、精度の高い技術が必要となります。前回までは、高い技術に必要な「絶対的基礎」をいかに積み上げていくかという事的重要性をお話してきましたが、今回は、この高いゲーム性を支えるオールコートゲームに欠かせない「フットワーク」をテーマとします。

まず図1のように、低年齢においてより加速できるようにストロークのリズムを開発し、それを様々なシチュエーションに対応・適応できるフットワークを開発していきます。そして、そこからいかに実践に発展させていくかを表したのが図1です。



図2

これだけの種類のフットワークが存在しますが、ここからは、図4のようにベースラインプレーを中心にフットワークを見ていきます。



以前からコートを、ベースラインをレッドゾーン、アプローチするエリアをイエローゾーン、ネットプレーをグリーンゾーンと戦術的に分けますが、図4のように、ベースラインプレーでのゾーンも信号機のようにディフェンスをレッドゾーン、ニュートラルをイエローゾーン、オフェンスをグリーンゾーンと分け、プレイヤーは1ポイントの中でも、このゾーンを戦術的に行き来します。現代のテニスでは、一人のプレイヤーに戦術的判断によって、ポジションを縦横無尽に変える能力が、必要とされます。

アタッキングフォアハンド(右利き)

クロスオーバー+サイドステップ+左+左



アタッキングバックハンド(右利き)

右+右



ディフェンスフォアハンド(右利き)

右+右orバックピボット



ディフェンスバックハンド(右利き)

左+左



そしてニュートラルゾーンでは、オープンスタンス・スクエアスタンスなどを多く用いますが、その他にバックハンドをクローズドで踏み込んだ場合、踏み込んだ足が身体のローテーションを邪魔したり（つまり身体の加速を妨げたり）、しないよう、バランスを保つために下記のように、タイミングよく踏み込んだ足を外します。それをスイッチフットと呼んでいます。

スイッチフット(右利きバックハンド)



いかがでしょうか？能力のあるプレイヤーは、自分の置かれた状況を的確に判断し、適切なフットワークを選択するだけではなく、その状況下でプレーするために、正しい動きに体が反応していきます。しかし、ディベロップの段階において、各プレイヤーを分析していくと、全ての

プレイヤーがその環境にあれば体が勝手に反応・開発できるわけではなく、得意・不得意があったり、適切ではない方法でその状況をクリアしようとする場合も多いでしょう。そこで我々コーチは、上手く各状況下で必要なフットワークの種類を整理しておき、プレイヤーに順序立ててトレーニングし、習得させていく必要があるでしょう。皆様がプレイヤーにわかりやすく説明するうえで、一つのガイドラインとなったら幸いです。

次にゲーム性において重要視されるポジショニング。その質を高めるには、予測・判断・動きを含めたスピードが求められます。そのベースとなるのが、レディポジションから打って、戻ってくる一連の動きですが、それを総称して切り返し動作と呼びます。ではその切り替えし動作のメカニズムを見てみましょう。

切り返し動作のメカニズム



図5

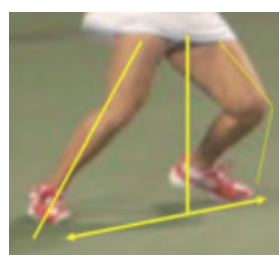


次に足首をしっかり背屈させ、踵接地で打つ動作に入ります。



図A

自分の体重を地面に押し付けるようにパワーポジションをとり（抜重）、次の瞬間、進行方向に一歩目のつま先が向きます。



図B



自体重を支え、そしてヒップローテーションを起こす上で、この踵接地は最重要課題です。

ブレーキングの際、もしつま先から接地したら、まるでランジをつま先から接地するようなもので、どれだけ安定に欠けるかが想像つくと思います。ですから足首は背屈で安定させ、踵接地によって、ハムストリング・お尻の筋力を、その

後爆発的に筋力発揮（トリプルエクステンション）させるためのローディングに入らせる必要があります。

次に図B（右側）のように打ち終わりの動作＝リカバリーステップは、戻る方向の内側の足（左足）に頭、股関節、膝、足首が一直線になるように、重心をコントロールします。そこから曲げた足を伸ばす動作（次の写真の左足が伸びているのを参照）＝トリプルエクステンションによって、右足をクロスさせることによって、クロスオーバーステップとなります。クロスオーバーステップをより早く、パワフルに長い距離を出させるには、この内側の足のトリプルエクステンションがキーになります。

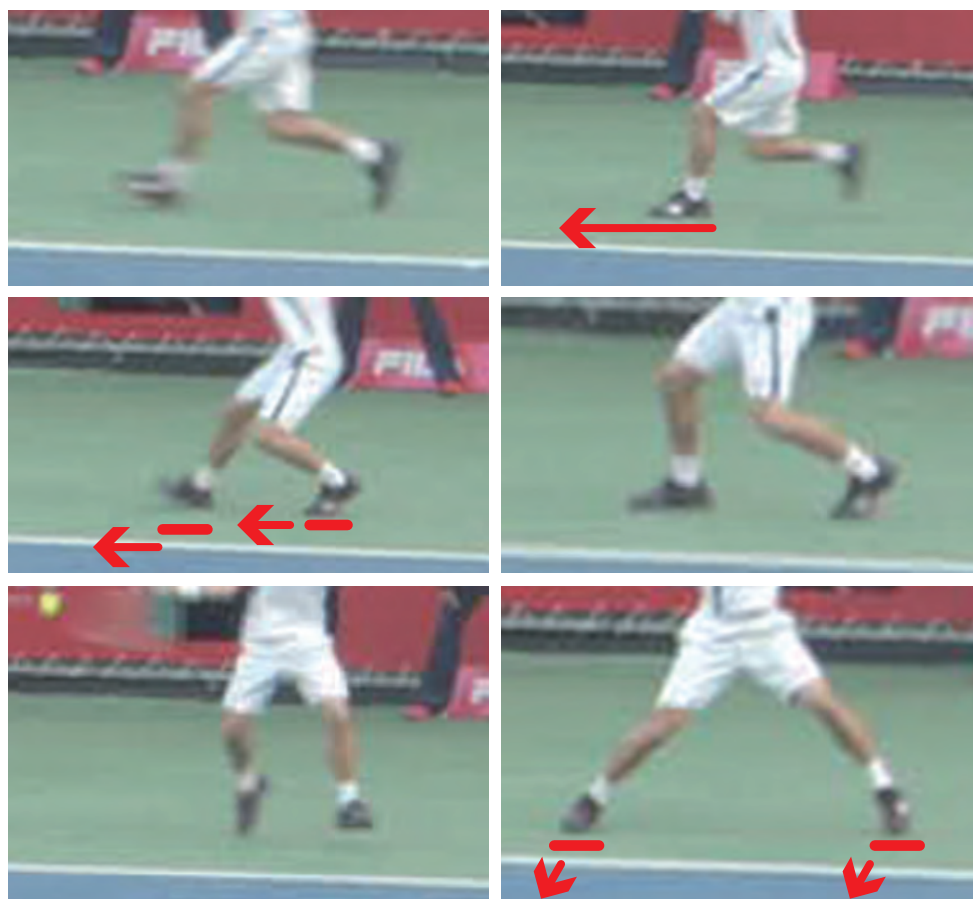
カッティング動作

図6のようにマークのついた箇所は、オープンスタンスでのカウンターが多く使われるエリアですが、その際の切り替えし動作の中でも、もう一つ掘り下げてキーとなるところを、クローズアップしてみましょう！



図6

ベースライン上で特に切り返し動作の精度が必要なシチュエーション



それはカッティング動作と言われるものです。図7のようにオープンスタンスでのヒップローテーションを効果的に生む上でのキーとなる動作です。

つま先の方を進行方向から打球方向へ切り返す動作をカッティング動作、またの名をスキーマーのモーグルに例えて、モーグルステップと呼び、股関節を常に車のワイパーのように、平行に同時操作します。図7の場合、このステップと右足のトリプルエクステンションを、上手く協調させヒップローテーションを生んでいます。選手には、左+右+カッティングという2歩を使うリズムで、習得させると効果的です。

図7

カッティング動作（モーグルステップ） = ヒップローテーションへ

最後に図8は、低年齢から最終的に世界基準でのゲーム性を確立していくまでのイメージを、図に表したものです。フィジカルベースを作り上げていく中で、それをいかにテニス特有のテクニクに変換し、それをハイパフォーマンスにチューンナップしていくかということが、ご覧いただけたと思います。常にこのコンセプトの発想を基に、トレーニングを組み立てています。

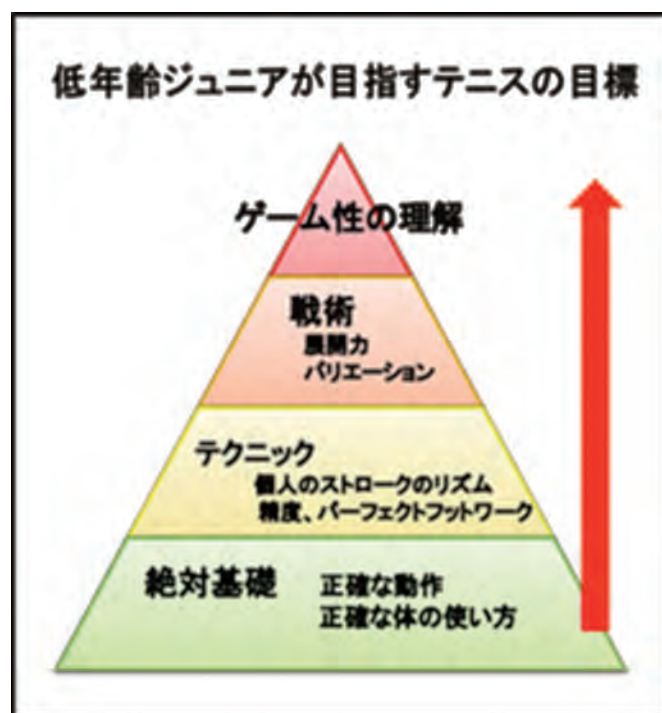
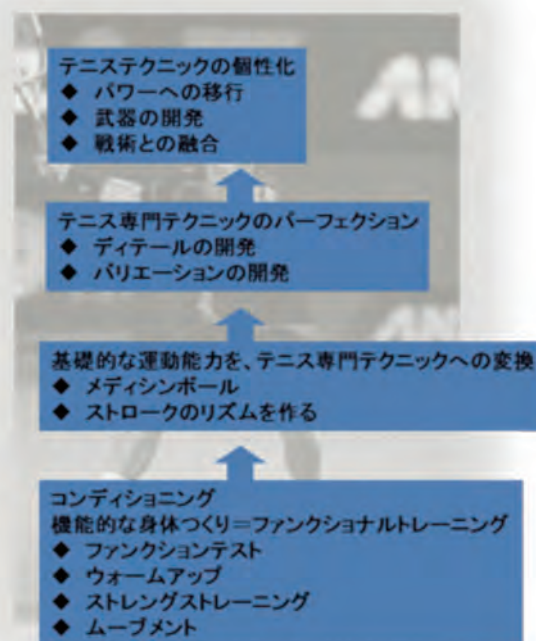


図8



次回は、ボレーやリターンのフットワークの紹介と、今回説明したフットワークのフィジカルトレーニングから、オンコートでのシチュエーション練習の紹介を、したいと思います。

【選手紹介リレー】

ProPlayer
Interview
プロプレイヤー
インタビュー

添田プロにうかがいました

Q01 テニスを始めたきっかけを教えてください

親の影響で始めました。おばあちゃんも含めて家族でテニスをしたのがきっかけです。

Q02 年齢や需要等で次第に変化してきたと思いますが、1日どれぐらい練習をするのでしょうか？

トレーニングも含めて2時間の時もあれば、6時間やる時もあります。

Q03 今、一番練習で気を付けていることやテーマはなんですか？

無駄な疲れを残さない事です。

Q04 現在、重点を置いているトレーニングはありますか？

身体のキレを常に良い状態にしている事です。

Q05 試合に臨む前のこだわりや、必ずしていることはありますか？

音楽を聴いて、常にポジティブに考えています。



「選手紹介」コーナーでは、往年の選手から若手選手まで出来るだけ多くの選手の皆さんにインタビューをさせていただき、プロとしての志や垣間見える素顔の部分をご紹介していきたいと思います。

200号記念号 第7回目のページを飾るのは「添田 豪プロ」です。



プロフィール

添田 豪 (そえだ こう)

- 生年月日：1984 年 9 月 5 日
- 出身地：神奈川県
- プロ転向：2003 年
- 所属：GODAI テニスカレッジ
- 得意なショット：バックハンド
- テニスを始めた年齢：4 才
- デビスカップ代表

< 主な戦績 >

- マウイ・チャレンジャー 優勝(2012/2013)
- 全豪 2 回戦(2013)
- ウィンブルドン 2 回戦(2012/2013)
- 全仏 1 回戦(2012)
- 全米 1 回戦(2012)
- チェンナイオープン ベスト 4(2012)
- アトランタオープン ベスト 4(2012)
- 高雄チャレンジャー 優勝(2012)
- ホノルルチャレンジャー 優勝(2012)
- 平果チャレンジャー 優勝 (2012)
- シンガポールチャレンジャー 準優勝 (2013)
- 慶應チャレンジャー 準優勝(2013)
- ロンドンオリンピック 1 回戦



- Q06 厳しい状況に立たされたとき、モチベーションを上げる方法がありますか？

この状況は意味がある事だと言い聞かせています。

- Q07 今までで一番 心に残っている試合はどれですか？

全国小学生大会決勝とデ杯コロンビア戦です。

- Q08 今までで一番テニスで悔しい思いをしたのはいつですか？

ウィンブルドン予選決勝で負けた試合です。

- Q09 今、日本を代表する選手として、デ杯でも勝敗を分ける重責を何度も負う立場にいらっしゃいますが、以前とご自身の中で何か変わったことはありますか？もしあればそれはどのようなものですか？

常にそのような状況が来ると思って練習やトレーニングに励んでいます。

- Q10 OFFの日など、どのようにリフレッシュをされていますか？

買い物、ゴルフ

- Q11 海外遠征には英会話は必須ですが、どうやって勉強をされたのですか？

中学生の時に塾に行ったぐらいで、後は海外に行って自然と覚えしました。

- Q12 今までテニスを通して得たことはなんですか？またそれがテニス以外の場で生きていけると感じられるのはどんなときでしょう？

海外経験が豊富なのであまり日本での生活で動じなくなりました。

- Q13 憧れの選手、目標にしている（もしくはしていた）選手がいれば教えてください。

サンブラス

- Q14 今、こだわっていること、マイブームはなんですか？

「なるべく自炊」する事。

- Q15 好きな食べ物は？また、それはどのような時に食べたいくなりますか？

寿司！ 海外から帰った直後に食べたいくなります。

- Q16 この世で苦手なものはありますか？

特にありません

- Q17 座右の銘、または好きな言葉をおしえてください。

「今を大切に」



- Q18 添田選手にとって「コーチ」はどんな存在ですか？

自分の進む道を示してくれる人です。

- Q19 添田選手にとってテニスとは・・・？

あまり深く考えずに自然と一緒にいる存在です。

- Q20 最後に添田プロを応援しているJPTA会員に一言お願いいたします。

勝っても負けても熱い応援をよろしくお願いします。

2013年度 JPTAコンベンション 開催報告

開催日: 11月 25日(月) - 26日(火)

会 場: ANAクラウンプラザホテル グランコート名古屋
東山公園テニスセンター

初の名古屋での開催となった2013年度JPTAコンベンションは、素晴らしい講師の方々をお迎えして、180人余りの皆様にご参加を頂きました。初日と2日目が別会場であるというハードルを課した中ではありましたが、無事に終了することができました。これもひとえに関連企業の皆様、会員の皆様、関係各所の皆様のご支援とご協力の賜物と、深く感謝致しております。

ここに2日間の概要をご報告致しますと共に、改めて皆様に厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました!

コンベンション委員会 委員長 金丸 由紀



11月 25日 (月)

13:00~15:00 特別セミナー
15:30~17:30 基調講演
18:00~20:00 懇親パーティー

特別セミナー

講師: 三森 ゆりか氏
つくば言語技術教育研究所 所長



『これからの日本に 必要な言葉の教育』

■ 特別セミナーを受けて 理事 佐々 章

〈 概 要 〉

学校、企業など各所での言語技術の指導をはじめ、現在JOC ナショナルコーチアカデミー、日本サッカー協会などで講師を務めていらっしゃる三森ゆりか氏に、教育現場、家庭ではもちろん、スポーツ指導現場でも重要とされているコミュニケーション(言語技術)についてお話をいただきました。



【 内 容 】

- ① 今後スポーツ指導の場では言語技術が特に必要となってくる
- ② これからの日本に必要な子ども達への言葉教育
- ③ 「言語技術」の組み立て方
- ④ 対話力トレーニングの実際

1. 修辞学を主体としたものの考え方について

具体的にはどのように言葉を使って理解させるか、そして問題をプロセスで考えることの重要性について説明され、必ず作文(文章に落とす)することがものを考える基本であると説明された。

2. ものの見方について

まず、全体像から見て考えることが情報をつかむうえで大切であり、これは、子どものころからこのような教育が日本では欠けているので、今後世界で活躍する為に子ども達にもこの言語教育が必要であると説明された。

3. 表現方法について

自分の考えを表現、主張し、又相手と対等に話す為にも言語で主語を入れる事が重要であり、言語の組み立てが自然にできるトレーニングや教育の大切さを述べられた。また、わかりやすく説明する言語、言葉の方法のトレーニングを参加者全員で行った。

【 感 想 】

自分の考え方をわかりやすく表現できる能力を身につける方法のひとつは、修辞学教育である様に感じました。テニス指導者も指導の現場において、生徒(子ども達)に考えさせる言葉を使うことがとても重要だと実感しました。

(例) 生徒がミス(ネット)した。コーチは君ならミス(ネット)しない為にはどうする?と質問し、自分の意見とそれについて考えさせることが必要と思いました。とても有意義なセミナーでした。

基調講演

講師：長島徹氏
帝人株式会社 相談役

**『企業とテニスと私』****■ 基調講演を受けて 理事 安川 裕也**

今回は、企業のリーダーとして素晴らしい実績と経験をお持ちの帝人株式会社相談役長島徹氏にお話をいただきました。

企業のリーダーとしてのアドバイスや、またテニス界のさらなる発展を目指す私たちにとって貴重な内容の講演となりました。

**【内容】****ギブアンドテイク**

ビジネスでも相手に利益を与え慌てず急がずテイクする。ギブギブでもよい。長い期間をかけてテイクするのが日本流であり、テイクテイク「まず自分、誰かにとられるなら今狩る」の西洋方式は日本には似合いません。

日本の精神は三方よし「自分よし、相手よし、世間よし」。人も会社も「品性（道徳的価値）と人格」を見極めることが大事。

1. コミュニケーションの重要性

- ①まず自ら発信
- ②ビジネスは「信義一体」
スポーツは「心技一体」
しっかりとした信頼関係を築ことが大切
- ③四つの「きく」（ヒア・リスン・アスク・エフェクト）
で関係性を深める。
- ④情報は「トップダウン（上から）」だけでなく「ボトムアップ（下から）」「フラット（横）」が大切である。

**2. バランス**

反対側から物事（自分）を見る。バランスは真ん中ではない。その時々でバランスの地点を探す。

3. “ものづくり”と“ことづくり”

このバランスが成功へのキモだと感じている。

- ・有形 ⇄ 無形
- ・ハード ⇄ ソフト
- ・インサイドアウト ⇄ アウトサイドイン
- ・技術中心 ⇄ サービス、市場中心
- ・品質管理、性能、コスト ⇄ ビジネスモデル、デザイン、シナリオ、戦略
- ・ビジネスの入口 ⇄ ビジネスの出口

4. テニスとの関わり

長島徹氏は、高校時代は軟式テニスに、大学時代は硬式テニスに情熱を注がれ、社会人となってからも約36年間テニス生活を続けられました。しかしながら社長就任後、ケガや体調を考慮し、しばらくテニスから離れていた中、ある人との出会いをきっかけにテニス活動を再開。その後、2005年企業として社会貢献及び、企業ブランドの向上のため、全日本ベテランテニス選手権大会の特別協賛を開始。又、会長就任後、一緒に遊ぶ仲間を作ろうとテニス好きな財界トップの方々と元全日本チャンピオンの方々が組んでダブルスマッチをする悠遊テニス会を2009年に企画されました。以後、日本テニス協会の支援もあり年2回開催。個人及び企業が日本テニス界を逆に支援する仕組みを創造されました。

全ては人と人との出会い、コミュニケーション、信頼関係が基本

経済同友会での相手の立場で考える、反対側に立って見る“ものごとづくり”を紹介していきたい。とお話いただきました。

5. 夢の実現

「夢を語れば、夢が叶う」と信じています。「次なる目標は全国百歳テニストーナメントで優勝することです。」と現在の目標を宣言されました。

2012年度

公益社団法人日本プロテニス協会 協会賞 受賞式

JPTAでは、毎年、「協会賞」として協会の活動のみならず日本テニス界の発展に貢献された方々を表彰し、各賞をお贈りしています。

会員の代表として各地区の地区長・幹事の皆様と理事より募りました候補者を、選考委員会にて検討し、選出後、理事会の承認を経て決定されます。

本年度も授賞式はコンベンション懇親パーティーにて実施いたしました。



協会賞 受賞者

PLAYER OF THE YEAR	錦織 圭 選手
優秀コーチ賞	八島 正幸 氏
協 力 賞	石津 吏氏
協 力 賞	大貫 弘二 氏
特 別 賞	小泉 幸枝 氏
特 別 賞	公益社団法人日本テニス事業協会 雑賀 昇 氏

【永年会員賞】

10年…19名、15年…18名、20年…37名、
25年…48名、30年…40名、35年…4名、
40年…1名

おめでとうございます。

11月26日(火)

10:00~12:00 オンコートセミナー 藤井 渉 プロ

13:00~16:00 オンコートセミナー 竹内 映二 プロ

16:00~17:00 質疑応答/アンケート ※チーム対抗交流戦同時開催

オンコートセミナー 講師: 藤井 渉 氏

『14歳以上のジュニア指導における注目ポイントの紹介と検証』
『一般ダブルス、今の技術で勝つ方法と実力を上げる方法、どう違う?』

■ オンコートセミナーを受けて 東海地区長 柴田 優子

〈 概 要 〉

伊達公子のコーチとして全豪オープンベスト4入りをサポートした経歴を持つ藤井渉プロによるオンコートセミナーからスタートした。

まず打ったらセンターへ戻れと言われるが、皆はどこへ戻らせるのか位置確認、フォアストローク、フォアアプローチ、フォアボレーの時、ボールは何処に打てばよいのかなど、一つ一つ指導の基本確認から進められていった。

**【 内 容 】****ストローク**

- ・クロス、ストレートを打ち分ける時、何が重要であるか
- ・ストロークの振りをどう指導するか、またどのように表現として言葉にするか
- ・ラリーを指導する際、上手く打てた時、そうでない時、どの部分に触れてどのように言葉をかけていくのか

ネットプレー

- ・前に出ていくことの重要性

スマッシュ

- ・スマッシュを打つ時のボールを捕える位置、肘の位置

サービス

- ・トスの上げ方
- ・トスの位置
- ・打つ時の考え方とポイント

指導において、基本となる事をベースに実践を含め説明が成された。

質問される会員の方々は、その返答と同時に藤井プロらによる実際のプレイが見たいとの希冀が強く、佐藤理事長も加わり熱の入ったデモンストレーションとなった。

オンコートセミナーは、文章等の説明ではわかりづらいことも、即実践で目にすることができると、会員の方々も理解しやすく大きな利点である。

**【 感 想 】**

今後も、より多くの会員の方々が興味を持ち、より有意義なオンコートセミナーが開催できるよう、講師、テーマともに充実を図り、今後の日本プロテニス協会全体のレベルアップ、向上に繋がるよう期待したい。

JPTA CONVENTION CUP

(チーム対抗交流戦)

チーム対抗交流戦 進行 理事 荒井 英樹

チームリーダー 佐藤 直子 プロ
山本 育史 プロ

参加希望の皆様によるくじ引きでチームを編成。ペアを交替しながら、1セットマッチで試合を行いました。本年度交流戦は、山本育史プロチームの勝利となりましたが、ご参加いただいた皆様、さすがの腕前で非常に白熱した試合となりました。



オンコートセミナー

講師：竹内 映二 氏

『ジュニアプログラム 14歳以下』 ～ ゲームを基にしたプログラム ～



■ オンコートセミナーを受けて 理事 余語 敏彦

〈 概 要 〉

コーチングの世界で、プレーヤーズファーストという言葉が叫ばれるようになって、もうずいぶんの時間が過ぎてしまいました。私は、15年以上前に伊達公子さんと共に、スポンジテニスのメニューを作成した時に、多くの書物からこのプレーヤーズファースト、プレーヤーズセンター、チルドレンセンターアプローチと呼ばれる概念を見つけることができました。今現在、私たちコーチは果たしてプレーヤーのこと、習いに来ている人のことを真っ先に考えて指導できているのでしょうか？

子どもたちは言葉を上手につかえません。そして、私たちコーチはその子どもたちの未来に触れているのです。その子どもたちから最高の笑顔を引き出しているのでしょうか？ゲームの楽しさ、上達することの楽しさ、競い合うことの楽しさを根本から考え直して、ゲームを基にした指導法からひも解いていきたいと思います。

ジュニアの指導を一緒に考えていきましょう！

【 内 容 】

竹内氏の豊富な知識と経験、そしてデ杯選手とデ杯監督などの実績に基づいたセミナーは、私達コーチには「目からうろこ」という内容で非常に勉強になりました。

「能力のある、無しに関わらず、その子どもの能力をマックスにする責任がコーチにはある」

この言葉にはとても共感しました。1つの物事を成し遂げる為に必要とされる時間は、10000時間と言われており、テニスでは14才位までに技術がすごくアップしていくことから、5才までにはテニスを始めていなければ、将来有望な選手には育っていかないとされました。

「コーチは常にプレーヤーズファースト、プレーヤーズセンター、チルドレンセンターという目線で考え、行動していかなくてはならない」

プレーヤーズファーストとは、具体的にどういうものなのか、ドリル等を紹介しながら説明していただきました。ただし、子どものキャパシティを超えることを指導しない（同時に2つ以上のことを注意しないetc）ことや、小学生位までの子どもの集中できる時間は45分位であることも注意する必要があると言われました。

「試合をさせましょう」

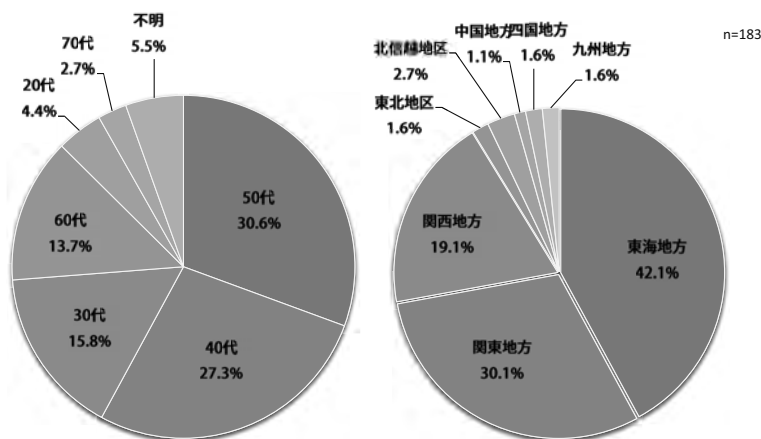
実践に勝る練習は無い。試合は、進歩の為であり、結果は大切では無いこと、そして試合は、学習において重要な位置を占めていると言われていました。

【 感 想 】

とにかくポイントのつまった内容で、あっという間の3時間でした。今後も竹内氏のセミナーがあれば是非参加したいと思います。



参加者情報



会場にて、コンベンション、資質向上セミナーの活動に関するアンケートを実施いたしました。ご協力いただき誠にありがとうございました。皆様よりいただきましたご意見、ご要望は、コンベンション委員会、資質向上委員会に活用させていただきます。

資質向上委員会より

プロテニスコーチとして必要な指導技術向上の為、セミナーを実施しています。
内容は多岐にわたり、プロテニスコーチ同士の意見や情報交換の場となっています。

本年度は会員の皆様と当協会のつながりをより密接なものとなるように
各理事が1度セミナーを実施しております。

▶ 理事セミナー開催報告

会場：御殿山ラフォーレ東京 テニスコート
白戸 仁 理事

日 時	参加者	テ ー マ
7月 8日	5	参加者の要望により決定。 【今までの内容】 (フォアハンド、P+Sの主なメニューの注意点、 送球法、ショートラリーの重要性、ストローク、 両手打ちバックハンド)
8月 26日	4	
9月 30日	3	
10月 21日	5	
11月 18日	2	
12月 16日	1	



日 時	会 場	参加者	担当理事	テ ー マ
9月 13日	事務局会議室	18	千野 時晴 理事	テニス人生とテニスクール経営
			馬場 修 講師 ゼット(株)35年勤務 現在各社商品部アドバイザー	市場背景とユーザーの動向と ショップでの仕掛け
9月 16日	江坂テニスセンター	22	佐々 章 理事	テニスコーチの将来！ プロとして成功できるヒント
10月 15日	Ken's インドアテニスクール 千葉	25	田村 賢司 副理事長	タムラクリエイト株の目指すもの、 その思い
11月 15日	慶應義塾大学 日吉キャンパス	4	坂井 利彰 理事	①世界ツアーを転戦して ②大学テニスの現状 ③チャレンジャー国際大会の意義
12月 6日	事務局会議室	9	吉田 信之 理事	プロコーチ38年： 指導～運営～経営で学んだこと
12月 9日	事務局会議室、 御殿山ラフォーレ東京 テニスコート	6	余語 敏彦 理事	①将来フリーになった場合に 生き残っていくためには ②アップテストの為の講習会
12月 27日	ヴェルデテニスクラブ	18	佐藤 直子 理事長	①USPTAカンファレンスに 参加して ②選手当時の体験談
1月 13日	春日西テニスクラブ	6	山本 育史 常務理事	受講者のご要望に応じた内容



▶ 今後の理事セミナー

詳細は協会ホームページをご覧ください。
[<http://www.jpta.or.jp>]

日 時	会 場	担当理事
2014年 2月23日	徳島 (テニスアリーナガーデン福島)	白戸 仁 理事
2014年 2月24日	事務局会議室	平沢 潤 理事
2014年 2月26日	事務局会議室	安川 裕也 理事
2014年 3月 3日	事務局会議室	檜垣 泰章 常務理事
2014年 3月 6日	事務局会議室	金丸 由紀 理事
2014年 3月12日	事務局会議室	内田 龍之 副理事長
未 定	広島(場所未定)	富岡 信也 専務理事



第3回ブラッシュアップ勉強会 報告書

資格認定講習委員会副委員長 八島正幸

【ブラッシュアップ勉強会開始のいきさつ】

- ・講習会(UP講習会も含めて)やプロテストで見られる勉強不足、技術テクニックの低下および、レッスンテストの中で教え方の素晴らしさや、ユニークさが無いことが懸念されている。
 - ・プロテスト合格以降、プロコーチとしての自己研鑽に取り組む場が少ない。
- 以上の点が問題として浮上しており、解決方法を模索した結果、全2日間の形で行うこととした。

【目的】

- ☐ 会員の指導技術レベル向上 (『ア!!魔法みたいに治った』)
- ☐ 会員ご自身の技術力UP (『うまい!!格好いいフォーム』)
- ☐ テニスマン・指導者としての人間力UPを目指す (『さすがテニスのコーチ』)
- ☐ 会員同士の横のつながりを密にする (『仲間作り・情報交換の場』)

※教育や文化等の教養を身に付ける為に自己投資をする心を持つ事が、経営哲学を生み生徒さんの気持ちを理解できるようになる為に、重要であるという事を改めて感じる場にする。
※本勉強会には、全体の構成の流れがある為、本来は1泊2日の通しの講習会であると認識していただきたい。

【開催日】2013年 12月8日(日)~9日(月)

【会場】ブルボン・ビーンズドーム
(兵庫県立三木総合防災公園内屋内テニスコート)

【参加人数】39名(会員:29名、一般:10名)

【講師/敬称略】右近憲三、中田研、小泉幸枝、森田常樹、
竹内映二、山本育史(ワンポイント)
コーディネーター八島正幸

内容

1. テニス界のジェントルマン 右近講師

(1) 講義

- ・ナショナルコーチとして学んだこと
サポートの役目の重要性⇒コミュニケーションの大切さ。
- ・今後の指導に対する展望

①ジュニアに対して

体が出来ていなければ技術はつかない
バランスよく食べる(何の為に食べるのか)
体力をつける(トレーニングの大切さ)

②ナショナルコーチアカデミーで他のオリンピックコーチから教わったこと

『教え過ぎない。気付かせる』(水泳の平井コーチ曰く)

ナショナルトレーニングセンターのような環境が大切。

(2) オンコート

- ・伝家の宝刀:バックハンドスライスの実演(これを武器に、全日本ランキング20位台。コナース、マッケンローとも対戦し、とても息の長いプレーヤーであった)

Q: トップスピンがかかったボールをどのようにスライスで返すのですか?

A: 私は踏み込んで、弾んでくるボールの軌道の中に入って打ちます



※山本常務理事: (モデル生徒へのワンポイント飛び入りクリニック)

「私の主義は1~10まで教えるのではなく、1・2を言って10までを気付かせることです」

【練習法】

- (A)横から出されたボールを打つ
- (B)後ろからボールを追いかけて打つ
- (C)素早く回り込んでフォアハンドを打つ
を通して選手に気付かせることの重要性を紹介
・予備動作の重要性
- (D)早いボールをノーバウンドで打つ(2歩動いてのドライブボレー)
最初はうまく打てなかったが「コツ」(戻ること考えない)を伝え、うまくいった
・「テイクバックをしてはダメ」
- (E)ネットから2歩離れた位置で早く球出しされたボールをボレー
ボールよりも速くネットタッチする練習をはさむことで改善された。



2. ミスター赤ひげ 中田講師

(1) オンコート

- ・モデル生徒の悩みを診断・解説⇒具体例: 中3男子の肩の痛みについて(成長期にはケガが多い)



(2) 講義

- ・スポーツ医学: ケガをしたら、プレーが、できるように高いレベルに早く戻す⇒究極目標RTP(Return To Play)
ケガの予防は病院では出来ない、現場(コーチ)が正しい知識・知恵をもって指導して欲しい⇒コーチもしっかり体の構造を把握すべき
- ・チームドクターとは: 活動の目標『「よい体調で」「故障なく」最高のパフォーマンスを「継続できる」』
- ・「ケガをしたら診る」ではない。常にその人のパフォーマンスを上げる。競技力の下支え
- ・熱中症とは: 100%予防可能なスポーツ障害。だが、最悪の場合、死に至ることもある
ヒートルール(10分間のアイシングタイム)の導入⇒ドクター側から運営サイドへの要請
- ・ゴールドentraiangルからゴールデンダイヤモンドへ
豊富な練習+厳しい試合(選手)+体カトレーニング(トレーナー)に「メディカルチェック」を加える

(3) グリーンピア三木の講義



- ・体の構造に関して
サーブは5つの関節(上腕肩甲関節、肩関節、肩鎖関節、胸鎖関節、胸肋関節)を使って打つ動作
肩甲骨の可動域の大きさが重要: 大きく使うことで少ない力でより大きな効果(強い球を打つこと)が得られる
鈴木選手、杉田選手の紹介、プロゴルフ石川遼選手のとても大きな可動域の紹介

3. ジュニアからベテランまで、すべてのプレーヤーの鏡!!

小泉講師

オンコート

- ・16年連続ベテランチャンピオンの理由⇒考えて練習すること。やっていて飽きない練習をすること
- ・ユニークな練習方法の紹介：タオルを的にしてボールを打ち、当たる度に面積を小さくしていく
- ・当たれば動物的（100円ショップで購入）を使って、的を次々に動かしていく



とにかく足さばきがすごい!

4. おもしろい! 森田講師

オンコート

- ・テニスビジネスは、まだまだ掘り起こす方法がある（ワンコインで小学校の校庭を利用するなど）
- ・テニスでもビジネスでも、常に攻めの意識を忘れず。工夫することを実践している。
- ・「私は日頃、まだ技術的に未熟な人と練習します。なぜなら、予測を覆され対応を余儀なくされるからです」

※とにかく技術解説・練習方法の全てに意味があり、「ワンワード」でテンポの早い講演でした



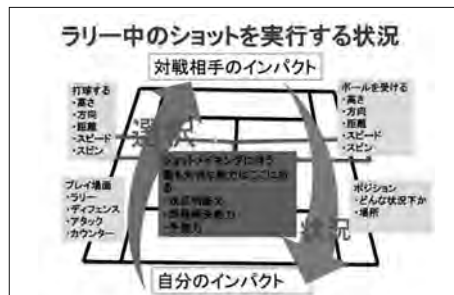
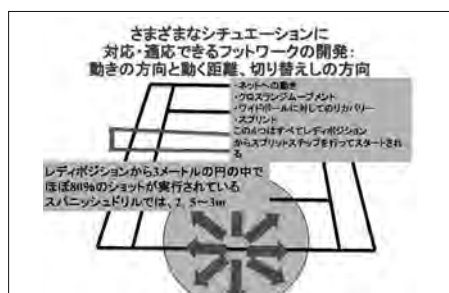
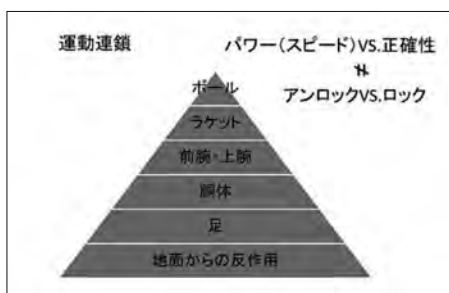
5. 心・技・体の全て揃った王道 竹内講師

オンコート

バイオメカニクス等の観点からの着眼点・矯正法の実例の紹介（しっかりと理由付けをしてお説明）



- ・プレーヤーズファースト、チルドレンセンター：ゲームや練習は、年齢や習熟度、上達レベルに合わせてデザインされるべき。
- ・運動連鎖：
地面からの反作用→足→胴体→前腕・上腕→ラケット→ボール
[パワー（スピード）vs正確性] ≠ [アンロックvsロック]
- ・サーブ：ダイナミックなモーションを獲得する
インターナルローテーション、ショルダーオーバーショルダー、レッグパワー、ヒップオーバーヒップ
- ・さまざまなシチュエーションに対応・適応できるフットワークの開発
- ・技術と戦術を同時に教える為のマトリックス
- ・練習の質と強度を高める方法



技術を戦術を同時に教えるためにマトリックス

	ボールを握ける・入れる	相手を動かす	ポジションを確保する	武器を使う	網みを突く
サーブ					
レシーブ					
ふたりともベースライン					
アプローチネット					
相手がアプローチネット					

※これは竹内講師から提供いただいた資料の一部です。
参考にしてさらに勉強し、役立ててください。

等の考え方を

「説明」(Think!)、「実演」(See!)、「参加・体験して学ぶ」(Do!) する勉強会でした

参加者全員に一言ずつ感想を伺う予定でしたが、時間の都合で代表者に話していただきました。今回一番遠く千葉より参加された桜井さんからの「関西らしく端的で楽しい講演でした」という言葉が印象的でした。また、森田講師の「これが出来なかったら、明日はないさ」には大爆笑でした。

初回から今回まで、全3回のサポート役を務めた山本君も「全部が素晴らしく、よい経験になりました。小泉講師を囲んでの、夜中までの懇談会で聞けた本音の話にも刺激を受けました」と話していました。

JPTAが率先して、もっともっと、テニス界を盛り上げましょう!!。佐藤理事長のお言葉通り『真のプロフェッショナルを目指した団体に!!』。するべく頑張らしましょう!!



ジュニア育成委員会より

ニュージェネレーションテニス 全国大会開催のご案内

ニュージェネレーション・スカウトキャラバンテニスとは
JPTAが全国展開で行うジュニア発掘キャラバンの名称です。

スカウトキャラバン全国大会は、全国のJPTA会員が開催する小学生（幼稚園年長も含む）なら誰でも参加可能な、地区選考会において、地区代表として選ばれた子供たちが出場する大会です。

本大会で優秀な成績を収めた4名の最優秀ジュニア選手には1年間のスカラシップを授与し、ジュニア育成のプロジェクトチームによって行われる育成サポートプログラムを用意しています。1年間を経て、将来性が期待されるメンバーにはさらに引き続き制度が適用されます。

第2回 JPTA JUNIOR TENNIS TOURNAMENTグリーンボール大会 U10 第4回 JPTA ALL JAPAN JUNIOR TENNIS TOURNAMENT U13・U15 第16回 ニュージェネレーションテニス・ジュニアスカウトキャラバン

日程：平成26年2月21日～2月23日

会場：三萩野庭球場、桃園庭球場、北九州穴生ドーム、北九州ウェストサイドテニスクラブ



JPTA スカラシップ システム (平成25年度実績)

一年間の育成・強化プログラムおよびメーカーサポートプログラムを授与いたしました。

ジュニア育成・強化プログラム

JPTAプロコーチによる一年間の総合指導を受講できます。

- テクニカルコーチング ●フィジカルコーチング
- メンタルトレーニング ●栄養管理・指導

スタッフ

ジュニア育成・強化プロジェクトチーム

- コーチングスタッフ：田村信也プロ、山本育史プロ、辻野隆三プロ、吉田友佳プロ他
- ジュニアプロコーチスタッフ

メーカーサポートプログラム

JPTAスカラシップシステムとテニスメーカーによるサポートタイアップ。将来のスタープレーヤーを目指すジュニアたちへより良いテニス環境を提供いたしております。

- プリンス ●ヨネックス ●ブリヂストンスポーツ
- ゴーセン

海外遠征

ロサンゼルス遠征派遣

- 高学年の部の最優秀者
- トーナメントU13、U15優勝者

JPTAジュニア育成・強化プログラム

公益社団法人日本プロテニス協会では、ニュージェネレーションテニス全国大会において優秀な成績を収めた選手の為に、一年間の育成・強化サポートプログラムを用意しています。

春、夏、秋に開催する育成・強化合宿、エリア別育成・強化の特別レッスンなどテーマを決めてプロコーチによる密度の高いレッスンが受講できます。また、夜には講義時間を設け、技術面だけでなくメンタル面でのサポートにも役立つ情報を提供しています。

※日程や会場は変更となる場合がございますので予めご了承ください。

※詳細が決定次第協会ホームページに掲載予定

平成26年度 ジュニア育成委員会 年間スケジュール (予定)

日 程	会 場	日 程
第1回 育成・強化合宿 5月30日～6月1日	グリーンピア三木	ロサンゼルス遠征 6月8日～22日
第2回 育成・強化合宿 8月18日～21日	花川運動公園、浜松市雄踏総合公園	ジュニアオレンジ遠征 12月1日～23日
第3回 育成・強化合宿 11月22日～24日	シーガイアテニスアカデミー	ニュージェネレーションテニス 全国大会 平成27年 2月20日～22日

平成25年度育成・強化プログラム内容のご報告

時 期	内 容	時 期	内 容
第1回育成・強化合宿 (スプリングキャンプ 6月28日～30日) テーマ マッチ練の中から課題を見つけ、 マッチ練の中でトライしよう	*ドリル練習 *球出し練習 *ラリー練習 *講義(荒井英樹コーチ) *ストレッチ *体幹トレーニング *マッチ練習 *グループディスカッション	第3回育成・強化合宿 (オータムキャンプ 11月15日～17日) テーマ マッチ練の中から課題を見つけ、 マッチ練の中でトライしよう	*ウォーミングアップ・ジョギング& ストレッチ *ラリー練習 *講義(山本育史プロ、茶園鉄也プロ) *マッチ練習 *課題練習
第2回育成・強化合宿 (サマーキャンプ 8月19日～22日) テーマ 共同生活の中で自主性、 人間力をUPしよう	*ショートテニス(ラリー・ボレー) *ウォーミングアップロングラリー *球出しドリル *講義(平沢潤プロ、吉田友佳プロ) *ラリー練習 *ストローク&ネットプレイを取り入れたポイント練習 *サービス&リターン *ダブルスゲーム *スカウトキャラバン&トーナメント *ウォーミングアップ、ストレッチ(金子トレーナー)	エリア育成・強化レッスン テーマ 担当コーチが各エリアにて レッスン	北海道地区・東北地区・北信越地区・ 関東地区・東海地区・中国/四国地区・ 関西地区・九州地区

■ 第1回 育成・強化合宿

日程：平成25年6月28日～6月30日

場所：シーガイアリゾート(宮崎県)

参加コーチ：太田耕造事業副部長・山本育史事業副部長・藤沼敏則ジュニア育成委員長・
田村伸也ジュニア育成強化コーチ・荒井英樹ジュニア育成副委員長

参加人数：35名

合宿テーマ：マッチ練の中から課題を見つけ、マッチ練の中でトライしよう

当初、2日目は1日中試合を行う予定でした。これまでの練習会では技術の向上、試合に向けての準備の意味合いが強かったように思われましたので、今回の合宿では、日頃の練習の成果を本当の試合で発揮できるように、勝ち負けに関係のない、ランキングにも影響しない練習マッチで力を付けていけるような合宿にしたいと思っておりましたが、非常に、非常に残念な雨の3日間となってしまいました。

参加していただいた選手達もフラストレーションの溜まる3日間ではあったかと思いますが、トレーニング、ストレッチ、講義などいつもよりも充実した時間となりました。また雨で思うようにテニスをできない事が、限られた時間でテニスに集中して取り組む姿勢となって表れていました。我々も、もっともっと勉強し良いプログラムになるよう努力を続けていきたいと思っております。



■ 第2回 育成・強化合宿

日程：平成25年8月19日～8月22日

場所：花川運動公園、亀崎テニスコート（静岡県・浜松市）

参加コーチ： 渡辺功副会長・渡辺力顧問・辻野隆三事業部長・太田耕造事業副部長・平沢潤事業副部長・山本育史事業副部長・藤沼敏則ジュニア育成委員長・田村伸也育成強化コーチ・吉田友佳育成強化コーチ・吉田真幸ジュニア育成委員・山崎章ジュニア育成委員・三井勝彦ジュニア育成委員・濱田洋史ジュニア育成委員・金子和宏トレーナー

参加人数：79人

合宿テーマ：共同生活の中で自主性、人間力をUPしよう

非常に天候に恵まれ暑過ぎるぐらいの4日間となりました。今回の会場の花川運動公園は4面のインドアコートもあり暑さをしのげるだけでなく、10歳以下の体力的にも不安のある選手達にも最高の環境となりました。酷暑の中で熱中症、熱けいれんを心配していました。軽く体調を崩す選手もいましたが、休息後、コートに戻って練習を再開しており安心しました。この4日間選手達は非常に頑張ったと思います。

前半の2日間は吉田友佳プロが積極的に選手とコミュニケーションとヒッティングをしていただきました。またキャンプ中にサプライズな報告もあり吉田プロがフェドカップの監督に就任されました。どれだけ選手達の心に響いたかは分かりませんが、きっと何か一つでも身につけてくれたと信じています。同じように田村コーチをはじめコーチングスタッフの熱い思いは通じたことと思います。

また、最終日にはナショナルチームをはじめ、ヨネックスのジュニアキャンプでも活躍されている金子トレーナーにも参加していただきました。ウォーミングUP、ストレッチを実戦と説明を丁寧に指導していただきました。怪我の予防だけでなく、より良いプレーヤーになっていくにはテニスの技術以上に必要な事なので、選手の間々が日々の練習に取り入れていく事を願っております。



■ 第3回 育成・強化合宿

日程：平成25年11月15日～11月17日

場所：シーガイアリゾート（宮崎県）

参加コーチ： 山本育史事業副部長・田村伸也育成強化コーチ・山崎ジュニア育成委員・茶園鉄也プロ

参加人数：21名

合宿テーマ：マッチ練の中から課題を見つけ、マッチ練の中でトライしよう

今回、特別ゲストとして茶園プロが3日間参加してくれたことが、育成選手達にとって、とてつもなく大きな影響を与えることができたのではないかと実感しています。

茶園プロには、選手みんなとのコミュニケーションだけではなく1人1人丁寧に技術指導をしていただきました。本当に感謝いたします。

今回のプログラムのテーマは「マッチ練の中で課題を見つけ、マッチ練の中で日頃の成果をトライしよう!」でした。これまでは、最終日に合宿でのテーマをマッチ練にだすように指導していましたが、日々の練習との連動を考え、2日目に沢山のマッチ練を組み込みました。それも1セットだけではなく2セット連続で行うことによって、より多くの課題を見つける事が出来たのと、その課題を最終日に少ない時間ではありましたがフォローできた事は、今回の合宿での大きな成果となりました。次回も同じような形でプログラムを組んで行きたいと思います。一長一短では上手くないのがテニスです。今後の選手達の成長を期待します。



このプログラムを支えていただいている、藤沼ジュニア委員長、田村育成・強化コーチを始めコーチングスタッフの皆さん、わがままを聞いてくださっているシーガイアリゾート様、会場を提供していただきました花川運動公園、亀崎テニスコート様、事務局、それから引率して下さったご父兄の皆様、この合宿に送り出していただいたご父兄の皆様方に心より感謝いたします。本当にありがとうございます。

育成・普及事業副部長 山本 育史

JPTA会員人物紹介



会員人物紹介では理事、地区長、幹事の皆様からの情報を基に、各地区で活躍している会員をピックアップし紹介します。

今回は東京地区より渋谷地区長に2名の会員をご紹介します。

今回、東京地区から2名の会員を紹介させていただきます。1人目は「狛江インドアテニススクール」で支配人として活躍されている中村雅巳会員です。中村さんとは以前、同じ職場に勤務しておりました。その当時から、『お客様を上達させたい!・楽しんでもらいたい!』という気持ちがとても強く、何事にも全力で行動する姿が目に見え付いています。

2人目は「サントピアテニスガーデン」でヘッドコーチとして活躍されている熊岡直樹会員です。熊岡さんとは、「テニススクールグランドスラムトーナメント」というイベントで出会いました。熊岡さんも中村さん同様、何事にも一生懸命で、自分自身成長してお客様のためにという気持ちを感じさせてくれる好青年です。

東京地区長 渋谷 一義



中村 雅巳会員

会員の皆様はじめまして。東京都狛江市にある狛江インドアテニススクールの中村雅巳です。

私は、小学生の頃テレビでボリス・ベッカーの試合を観て、サーブの速さに興味を抱きました。当時私は野

球少年で、野球では150キロの球速であったのが、テニスのサーブは200キロという球速に驚きました。それに影響を受け中学では軟式テニス、高校入学後は、硬式テニスに没頭する毎日を経験しました。高校を卒業すると同時にテニス仲間よりテニスコーチに誘われスタートしました。

コーチ業の経歴としては、埼玉でスタートし、渋谷地区長と一緒にVIP・TOPグループにて勤務し、その後一度テニス業界から離れましたが、日々の気持ちの充実を求め再度テニス業界への思いから、現在の狛江勤務に至ります。狛江インドアテニススクールではオープニングから携わり、今度の4月で丸9年を迎える事となります。

当スクールは、各担当コーチの個性を活かしたレッスンを行っ

ています。各イベントでもキャンセル待ちが出る程盛り上がりがあります。お客様とのコミュニケーションをとる中でニーズにあったイベントを企画できている結果だと思っています。

テニスの楽しみ方はいろいろです。仲間とラリーが出来る喜び、試合をして楽しむ、トーナメントに参加する、トーナメントで勝つそれぞれの目的を持ったお客様と長い付き合いが出来るように、考え、勉強し続けていきます。そのためにも、現在はP3ですが、P1を目指して再度チャレンジしていきたいと思っております。

また、講習会等で皆様とお会いする機会があると思しますので、意見交換やアドバイスなど頂ければと思います。

<プロフィール>

- ①テニス歴 24年
- ②コーチ歴 20年
- ③ライセンス JPTA/USPTAプロフェッショナル3
テニスプロデューサーⅡ
- ④趣味 ゴルフ
- ⑤レッスンのモットー
楽しく、時には厳しく『なるほど!』と気づかせるレッスン
多く数でも満足してもらえるように頑張っています。
- ⑥好きな言葉 現状打破



熊岡 直樹会員

皆様、はじめまして、東京都練馬区にありますサントピアテニスパークの熊岡と申します。

私が、テニスコーチを仕事にしようと決めたのは、大学4年の12月頃でした。当時、私はアルバイトでテニス

コーチをしており、私自身すごく楽しくレッスンをさせてもらい、仕事にできたらいいなとは思っていましたが、周りにいる先輩コーチの皆さんの技術を見ていると、自分には無理だろうと諦めていたので、テニスコーチになるという選択肢は全くなく、就職する準備をし、一般企業に内定もいただいていた。そんなとき、私が担当していたクラスのお客様が、仕事の事情でスクールを辞められる事になり、「週に1回、コーチのレッスンで元気をもらえました、ありがとう」と。その一言がきっかけで、就職先を考え直すことになりました。その言葉がすごく嬉しくて、テニスが下手でもコーチでやっていける道があるのかもしれない、テニスを一生の趣味にしておこう、テニスの普及で役立てる人材になろうと思い、この世界に入ることを決めました。やはり学生時代とは違い、楽しいことばかりではありませんが、周りのスタッフやお客様に支えてもらいながら、毎日充実した生活ができているかと思います。

現在勤務している、サントピアテニスパークには、インドアスクールを立ち上げるとの事で、オープニングスタッフとして入社し、おかげさまで今年8周年を迎える事ができ、試行錯誤の連続ですが、お客様に支えられ、スタッフ一同精進しています。

サントピアに入社してからは、他スクールとの合同イベントに携わる機会が増えました。スクール対抗戦や合同キャンプ、テニススクールグランドスラムトーナメント等、他のスクールと合同で活動するといろいろと勉強になることが多く、東京地区長の渋谷コーチをはじめプロ協会の先輩コーチの方々から、いろんなアドバイスをいただいています。

どうぞ機会がありましたら是非一緒にイベントをしていただき、テニススクール業界を盛り上げましょう!!



<プロフィール>

- ①テニス歴 18年
- ②コーチ歴 15年
- ③ライセンス JPTA/USPTA プロフェッショナル2
- ④趣味 晩酌
- ⑤レッスンのモットー 安全に!楽しく!!公平に!!!
- ⑥好きな言葉 努力した者が皆成功するとは限らないが、成功した者は皆努力している



地区便り [東京地区]



東京地区の地区長を務めさせていただいている渋谷一義と申します。現在、東京都江東区にあります、TOPインドアステージ亀戸に勤務しております。お近くにいらっしゃることがございましたら、お声を掛けていただけたら幸いです。



渋谷 地区長

東京地区の活動状況としましては、まだ具体的にに取り組むことができていないのが現状です。今後の取り組みについては、地区幹事を引き受けてくださっている、白倉さんと成田さんにご協力していただき、東京地区の皆様、情報交換の場・スキルアップする場を提供するには、どうしたら良いかを考え、皆さんに少しでもお役に立てるようなことを実現できるようにしたいと思います。

また、東京地区だけでなく埼玉地区や千葉地区などの地区長とも連携を取り、地域の枠を超えて、多くの方と情報交換の場を更に広げていけたら良いと考えております。

まだ、何もスタートしていない状態ですので、皆様からもこんなことをしてほしいなどのご意見やアドバイスをいただけたら幸いです。少しでも東京地区を盛り上げていけるようにしたいと思いますので、今後ともご指導・ご協力をお願い申し上げます。

地区会 開催報告

地区名	日時	内容
東海地区	9月2日	理事による今後の方針と活動について
関西地区	9月16日	新地区幹事紹介。今後の活動方針他
九州地区	9月15日 9月16日	JPTA九州地区スクール対抗テニス大会 地区会の今後の活動方針他
神奈川地区	下記参照	
四国地区	9月22・23日	テニスの日個別イベント 四国放送まつり

地区会開催報告

神奈川
地区

月例地区練習会 「賞金付」開催報告

神奈川地区では毎月スクール所属の現役コーチの為に練習会を開催し、勉強をしながら交流を深めています。皆様のご参加をおまちしております。

- 試合形式：当日抽選によるダブルス（女性15ハンデあり）
- 試合方法：リーグ戦後、順位別トーナメント
- JPTAポイント：1ポイント ■毎月第2日曜日に開催



実施日：7月21日（参加人員：10名）

優勝：石井 亮平会員・小林 祐樹コーチペア

準優勝：高橋 葉月会員・森 信コーチペア



実施日：8月11日（参加人員：16名）

優勝：廣野 信明会員・大貫 弘二会員ペア

準優勝：松原 俊和会員・高橋 葉月会員ペア



実施日：9月22日（参加人員：14名）

優勝：井上 泰男会員・高橋 葉月会員ペア

準優勝：小林 祐樹コーチ・川喜田 淳一コーチペア



実施日：10月13日（参加人員：16名）

優勝：廣野 伸明会員・小林 祐樹コーチペア

準優勝：田村 英和会員・山内 卓コーチペア



実施日：11月17日（参加人員：12名）

優勝：頼 一太郎会員・高橋 葉月会員ペア

準優勝：小林 祐樹会員・三森 康史会員ペア



実施日：12月8日（参加人員：14名）

優勝：小林 祐樹会員・廣野 伸明会員ペア

準優勝：高安 健司コーチ・山崎 貴志会員ペア

地区会開催報告

九州
地区

九州地区では、初の試みとして「JPTA九州地区 スクール対抗テニス大会」を開催いたしました。また、『より多くの会員が参加しやすい地区会』をテーマといたしました。

萩原顧問の温かいお言葉も頂戴し、『知識と経験のベテラン』と『行動力の若者』が触れ合う事の出来た地区会でした。

①九州地区地区会 日時：2013年9月15日

②スクール対抗テニス大会 日時：2013年9月16日

会場：北九州ウェストサイドテニスクラブ

参加者：11チーム 46名



九州地区会 の感想

アンケートより

- ・新しい顔、久しぶりの顔に会えて楽しかったです。
- ・人数が少し増え、久しぶりの顔を見ることができ嬉しかったです。
- ・更に若い会員の方々(20代)にも参加してもらえ地区会になれば良いと思います。
- ・色々情報交換が出来て良かった。
- ・九州地区会員の顔を出してもらえ地区会にしていこうという考えに同感です。
- ・様々な場所から色々な方が参加していて、とても勉強になりました。今後も自分のプラスになるように吸収したいと思います。
- ・情報交換が出来て良かったです。
- ・地域の現状の確認ができ、又協会の現状も分かりました。
- ・九州地区の歴代の諸先輩方のお話が聞けて良かったです。
- ・他県のコーチと交流ができ、良かったです。

東海地区会 の感想

アンケートより

- ・より多くの会員参加を最初の目標とし、そのためには地区会に参加するに値する価値やステータス、付加価値が必要になると思う、いずれにせよ、協会のブランド力がアップしてこそ地区会の参加につながるのではないかと思います。
- ・地区会への参加者が少ないのが非常に残念だと思ふ。また地区会のあるべき姿を明確にしていく必要があると思ふ。
- ・若手が参加しづらい組織になってしまっているのではないのでしょうか？今回の地区会参加をきっかけに仲間を誘って参加したいと思います。

JPTA能登国際女子オープンテニス2013開催報告

開催日: 2013年9月1日(日)～8日(日)

会場: 石川県能登町 藤波運動公園



トーナメントディレクター
国際・国内大会委員会
樽木 聖



JPTA能登国際女子オープンテニス2013(9月1日～8日)は、テニスのまち能登町と石川県、そして北陸のテニス愛するすべての皆様のご協力のもと、無事終了することができました。

今年は台風に見舞われ、大会期間中ずっと天気への心配をしなければならなかった状況となりました。幸いにも会場となる藤波台運動公園にはインドアコート(ハード)が4面あるため何とか日程を消化することができましたが、選手達はアウトドア(砂入り人工芝)とインドア(ハード)という違うコートサーフェスで戦わなくてはならず、本当に困難な環境の中での試合だったと思います。

それでも選手達は連日素晴らしいプレーを見せてくれて、特に今年は若手の活躍が目立った印象が残りました。セルビアのドロテヤ・エリッチ選手はこの優勝が彼女自身のツアー初優勝。準優勝の穂積絵莉選手は、昨年一昨年とワイルドカード(主催者推薦)での出場でしたが、今年はランキングを一気に上げ堂々第1シードとして登場、そして決勝まで進出し

てきました。前日のダブルスも優勝し、2冠をかけての決勝でしたが、敗れはしたもののこの先が楽しみな選手です。その穂積選手と組みダブルスで優勝した二宮真琴選手も10代の若い選手、とても歯切れのいいプレーをしていたのが印象に残っています。

イベントでは、悪天候にも関わらず、今年も多くのテニス愛好者の方がご来場くださったことも嬉しい限りです。本年度は、石川県テニス協会主催「テニスの日」共同イベントも同会場にて実施しました。

また、昨年に引き続き、選手とプレーができるイベントや、絵画コンクール、USTREAMでの試合中継、生ラジオ等、少しでも多くの方にテニスの楽しさ、素晴らしさを伝えられるような様々なイベントを企画しました。

最後になりましたが、今年も大成功のうちに閉幕できましたのも、ご協力いただきました皆様のお力添えがあってこそと、心より感謝申し上げます。

このJPTA能登国際女子オープンテニスが歴史あるトーナメントとして、能登の地に根付き、もっともっと皆様に愛される大会となるよう、大会実行委員長でもある佐藤理事長と共にこの大会を大切に育てていきたいと思ひます。



シングルス 優勝 ドロテヤ エリッチ (セルビア)
準優勝 穂積 絵莉 (P.I.T.A)

ダブルス 優勝 二宮 真琴 (橋本総業)
穂積 絵莉 (P.I.T.A)
準優勝 森 友香 (島津製作所)
伊藤 和沙 (島津製作所)



2013年「テニスの日」活動報告書



祝! 全国ボレーボレー大会
『めざせ! 10万人ボレーボレー』
2013年: 104,341人 達成!!

共同イベント

全国の都道府県テニス協会を中心に、テニスの日構成団体の各支部が協力して開催。今年も全国47都道府県すべてで開催されました。「めざせ! 10万人ボレーボレー」「PLAY+STAYの実施」「ほんのちょっとのエコ活動」を推奨事業とし、全国10箇所には協議会からプロ選手コーチを派遣し、指導にあたってくださいました。

共同イベントへの協議会派遣プロコーチ:(敬称略)

9/7(土) 石川 黒田 祐加	9/23(月) 福井 宮地 弘太郎
9/21(土) 茨城 山本 育史	9/23(月) 島根 宮崎 雅俊
9/22(日) 三重 佐藤 博康	9/23(月) 広島 駒田 政史
9/23(月) 岩手 白戸 仁	9/23(月) 岡山 神谷 勝則
9/23(月) 宮城 丸山 弘道	9/23(月) 大分 平木 理花

全国のイベント風景やボレーボレー達成者リストは
テニスの日WEBサイトで!

<http://www.tennisday.jp>

有明メインイベント

今年はキッズ/ジュニアにはPLAY+STAYを積極的に組み入れ、全国初の「スポンジ・レッド・オレンジ・グリーン・イエロー」の5種類のボールが一斉に飛び交うイベントを企画。団体の枠を超えて運営にあたりました。他にも、用品会や車いすテニス・聴覚障害者テニス等様々なイベントを実施。また『東レPPO観戦体験』や『スタンプラリー』などのコラボ企画を行いました。

【協力プロ選手・著名コーチ(19名)(敬称略)】

佐藤直子、坂井利郎、中嶋康博、倉光 哲、福井 烈、塩釜泰弘、二本松 一、米沢 徹、LARRY DUPLICH、山本育史、坂本正秀、兼城悦子、溝口美貴、山岸依子、安宅美弥子、手塚玲美、望月寛子、菅野知子、吉田友佳

個別イベント

昨年より42ヶ所増の476ヶ所のテニスクール、テニスクラブ、テニス団体がイベント開催登録をして下さいました。JPTA会員の会場も多数参加頂き、厚く御礼申し上げます。

開催登録箇所数: 476ヶ所 (昨年: 434ヶ所)

主なイベント: 「全国ボレーボレー大会ーめざせ! 10万人ボレーボレー」、コート開放・割引、スクール無料体験レッスン、テニスの日記念トーナメント、親睦テニス大会、ハンディキャップ・キッズ・ジュニア・親子・一般・シニアなどを対象とした各種テニスクリニック、ラケット試打会、ターゲットテニス、スピードガンコンテスト、コートに挑戦、他

個別イベント表彰

◇個別イベント大賞

- ・インドアテニスセンターウイング
札幌ウエスト校
「テニスの日ウイング秋祭」

◇ボレーボレー大賞

- ・メガロスインドアテニススクール 全店
「～全国10店舗対抗～メガロスダービー」

◇ビジュアル大賞

- ・TOPインドアステージ氷川台
「ボレーボレーでつながれ氷川台」

◇ビジュアル特別賞

- ・TOPインドアステージ多摩
「ボレーボレー大会」

◇個別イベント特別賞

- ・柏の葉インドアテニススクール
「テニスの日! テニス祭り! KIT祭り!!」

◇テニスの日特別賞

- ・(公社)日本プロテニス協会 四国地区会
「地元放送局 四国放送(株)『四国放送まつり』」

◇Tennis Express賞(2ヶ所)

- ・Kポイント・テニスコミュニなんじゃもんじゃ
「ビッグ・サークル・ボレーボレー」
- ・香川でテニス!

- 「通所介護事業所でボレーボレー」

◇アイデア大賞(2ヶ所)

- ・タムラクリエイト/Ken'sテニススクール
「テニスの日川柳募集&耐久サークルラリー」
- ・エバグリーンテニス フォレスト横浜
「フォトコンテスト」

◇感謝賞

- ・株式会社ツカダブランニング 9会場
「全9会場 テニスの日コート無料開放」

◇ボレーボレー特別賞(3ヶ所)

- ・ネオインドアテニススクール西新井
- ・TOPインドアステージ津田沼
- ・TOPインドアステージ相模大野

◇新人賞(8ヶ所)

- ・テニスポート波崎(セバック(株))
- ・Tennis Capsule OnLine テニス塾
- ・パブリックテニス小倉
- ・益田市テニス協会
- ・テニスラウンジ東海校
- ・鹿嶋テニス連盟
- ・リトルプリンスインドアテニススクール
- ・ピアインドアテニススクール

『テニスの日』有明メインイベントに参加して

ワールドテニススクール
秋山 真一

2013年の『テニスの日』有明メインイベントの規模は、オンコート延べ参加者：約1900人、用品会抽選会・スタンプラリー・東レPPO観戦体験などのお楽しみイベントを合わせ、延べ約4800人、実来場者数は『2500～3000人』と推定されます。(テニスの日facebookより参照)

テニスの日のスタッフとして参加しないかと、安川理事より誘っていただき、即答でお受けしました。

当日、JPTAプロの集合場所、有明のクラブハウスに集合しました。

佐藤理事長より本日のイベント協力へのお礼のご挨拶をいただき、その後JPTAプロコーチの自己紹介をしてから、各担当コートに分かれ打合せを行いました。

当日のJPTAプロの担当は、下記の通りです。

- ・午前中は、PLAY+STAY (レッドボール、グリーンボール)
- ・午後は、ワンポイントレッスンと、ジュニアテニスクリニック

私は、午前中グリーンボール、午後はワンポイントクリニックを担当しました。

- ・午前中は、グリーンボールコート塩釜プロの補助コーチ
- ・午後は、塩釜プロ、田中プロとワンポイントクリニックプロ選手、JPTAプロとのコラボレーションクリニック。

コートで、お客さまと一緒にプロ選手とJPTAプロと一緒にテニスをして汗をかく。

お客さまにとって最高の環境でテニスができる。

お客様には、大好評。

毎年リピートしてくださるお客様が多いのは、うなずけます。

テニスの日に参加させていただくことで、自分のテニス界での役割をあらためて再認識させていただくことができました。コーチとしてとても有意義な時間を過ごすことができました。

ただ、もっとJPTAプロが参加してもよいのではないかと残念に思いました。(もちろんご自身のクラブでの事業もありますが…) 特に20、30代の若いコーチがもっとたくさん参加するべきではないかと思います。

参加することで、自分のテニス業界の一員で、自分を磨かなくてはいけないと感ずることができる場だと思えます。

来年のテニスの日は、20、30代のコーチがもっと参加して欲しいと思います。

ぜひ『テニスの日』有明メインイベントを盛り上げて、テニスのファンを増やしていきましょう。

最後に、誘っていただいた安川理事、JPTA事務局、テニスの日関係者の皆様、テニスの日当日ボランティアに来ていただいたJPTAプロの皆様、大変お疲れ様でした。

ここで得た教訓を自分のクラブに持ち帰って、テニス界発展のために、全力で取り組んでいきたいと思えます。

来年もよろしくお願いいたします。



～参加者アンケートより～

- ・プロコーチとプレーヤーとのコラボレーションにより、自分のスクールでは味わえない感覚だった。
- ・協会員同士が親睦を兼ねて一緒に仕事ができることがとても有意義だった。
- ・子供たちと一緒に楽しくテニスできて良かった。
- ・ジュニアのテニス人口を増大させるためにもとても有効なイベントだと思う。
- ・プレーヤーと子供たちが打つ機会があることで、子供たちが喜んでた。
- ・テニスを盛り上げる企画に参加する事に意義がある。
- ・プレーヤーのアドバイスで子供たちが上達していき、大変盛り上がりよかった。
- ・参加した子供たちが『今日ここにきて良かった!明日からまた練習頑張ろう!』と思ってもらえたならうれしい。
- ・とても勉強になり、楽しかった。

ご協力ありがとうございました。

プロテスト委員会 プロテスト(UPテスト) 資格昇級者

日 時: 2013年7月8日(月)・9日(火)
会 場: GODAIテニスカレッジ船橋校
受験者数(新規含む): 16名

会員番号	氏 名	資 格	勤 務 先
2950	池田 茂樹	P1	GODAIテニスカレッジ 白楽校
2983	岩佐 健司	P1	狛江エルティシー
3560	谷村 俊樹	P2	TOP氷川台
3728	小川 幸一郎	P2	テニスサポート オガワ

日 時: 2013年10月3日(木)・4日(金)
会 場: TOP亀戸
受験者数(新規含む): 16名

会員番号	氏 名	資 格	勤 務 先
2796	木村 聡	P1	TOPインドアステージ多摩
3463	広橋 賢	P1	GODAIテニスカレッジ船橋
2979	西勝 雅人	P2	TOPインドアステージ津田沼
3658	成田 大地	P2	高島平インドアテニススクール
3746	小柴 鼓	P2	メガロス
3751	佐々木 俊己	P2	TOPインドアステージ亀戸

日 時: 2013年10月6日(日)・7日(月)
会 場: アオノリゾート
受験者数(新規含む): 5名

会員番号	氏 名	資 格	勤 務 先
3741	片山 雅貴	P3	コープこうべ協同学苑テニススクール

日 時: 2013年10月13日(日)・14日(月)
会 場: ロングウッド長久手
受験者数(新規含む): 11名

会員番号	氏 名	資 格	勤 務 先
3535	森清 恭史	P2	ロングウッド長久手

日 時: 2013年10月31日(木)
会 場: 宮の森スポーツ
受験者数(新規含む): 5名

会員番号	氏 名	資 格	勤 務 先
3164	庄司 和朋	P1	宮の森スポーツ
3748	遠藤 邦夫	P1	トップインドアステージ氷川台

新入会会員挨拶

※ 入会手續完了の新規会員様

氏 名	資 格	勤 務 先
跡部 淳	プロフェッショナル2	初めまして。跡部 淳と申します。年齢は36才、テニス歴23年、テニスコーチ歴は18年。レッスンでは『お客様1人1人に合ったテニスライフを提供する』を心がけております。JPTA入会後の抱負: テニスの未来の為に全力でとりくんでいきたいと思ひます。宜しくお願いいたします。
メガロス小平テニススクール		
坂本 龍	プロフェッショナル3	この度は認定および入会をさせていただきありがとうございます。私はコーチを10年以上行っていますが、この講習会とプロテストを通じて、改めて指導の原点を見つめ直すことができました。今後は認定コーチという看板に恥じない、生徒に信頼され、長くテニスを続けたいと思われるコーチを目指していきます。今後ともよろしくお願い致します。
メガロス神奈川インドアテニススクール		
小柴 鼓	プロフェッショナル2	私は、レッスンにおいてはテニスの上達を目的とするだけでなく、いかに楽しく、おもしろくテニスをするかも重要な要素だと考えています。会員1人1人の事を良く知り、覚えて、それをレッスン内で生かしています。さらにそこに笑いの要素を入れて次のレッスンの待ち遠しくするようにしたいです。みんなが笑すぎて自然に腹筋が鍛えられるようなレッスンが理想です。
株式会社メガロス		
井上 剛	プロフェッショナル2	この度、JPTAのメンバーとしての第一歩を踏み出すこととなりました井上と申します。「テニス=笑顔」をモットーに、多くの方々にテニスを通して笑顔になってもらいたいという想いを持ちながらレッスンをさせていただいております。まだまだ指導者として、人間としても未熟ですが、皆様と交流を持たせていただきながら成長し、テニスの素晴らしさを伝えていきたいと思っています。これからもどうぞ宜しくお願い致します。
トップインドアステージ相模大野		
佐々木 俊己	プロフェッショナル2	コーチとして自分がどれだけの技量があるのか?そんな風に感じていた私ですが、今回の資格取得が大きな自信となりました。講習会、プロテストで多くの事が学べたことに感謝いたします。これからは資格取得の為に学んできたことや経験を生かし、スクールでのレッスンをさらに良いものにしていきたいと思ひます。また、現場のスタッフにも今回の経験を伝え、一人一人のスキルアップを目指して指導していきたいと思ひます。
トップインドアステージ亀戸		
坂根 圭祐	プロフェッショナル3	テストで学んだ事を生かし、常にお客様にわかりやすく、記憶に留まる指導を心がけていきます。
みなみ坂テニススクール		
池田 瞳	プロフェッショナル3	テニスを通じて、楽しく活気のある毎日を過ごしてもらえるように。そして、新しい発見や感動を体感してもらえるように一生懸命レッスンして行きます。テニスの楽しさをたくさんの人に伝え、一緒に共感していけるようなコーチでいたいと思ひます。よろしくお願い致します。
コナミスポーツテニススクール西葛西		
藤原 唱平	プロフェッショナル2	この度、日本プロテニス協会に入会させていただき事になりました狛江インドアテニススクール所属藤原 唱平と申します。私はテニスコーチは天職だと勝手に思っております。体が動く限りコートに立ち、お客様のテニス技術向上のサポートをしたいと考えております。よろしくお願い致します。
狛江インドアテニススクール		
瀬藤 祐司	インストラクター	私は、生徒さんの才能を最大限に伸ばすこと、生徒さんの人生に彩りを加えることを大切にしています。あまりテニスの腕には自信がありませんが、そのぶん勉強をたくさんして良いレッスンが出来るように努力しています。JPTAの会員になることによって、多くの優秀な方と知り合い、勉強させていただく事で、自分のコーチングスキルをより高めたいと考えています。また日本テニスの発展に貢献できる仕事が出来ればと考えております。
ラケットパルテニスクラブ		
伊藤 芽生子	プロフェッショナル3	試験はとても緊張しましたが、無事に合格する事が出来ました。この資格試験を通して勉強したことを活かし、『お客様にいつも笑顔でテニスをしてもらえるように』をモットーに自分のレッスンの向上に努めています。一日でも早く諸先輩方のレベルに近づけるようがんばりますので皆さん、よろしくお願い致します。
ロングウッドスポーツ株式会社		
篠原 正之	プロフェッショナル3	この度、日本プロテニス協会に入会致しました、篠原と申します。プロテストで学んだ事、さらにはJPTA会員の諸先輩方からのご指導を受け、テニスコーチとして自分自身さらなる向上を目指して頑張ります。これから宜しくお願いいたします。
インドアテニススクール ロングウッド奈良		
小林 祐樹	プロフェッショナル3	合格できて、すごく嬉しいです。これを励みに今後もコーチ業に精を出し、テニス界の発展に従事したいと思ひます。
OTSテニススクール		
菅井 正和	プロフェッショナル2	プロテニス協会への貢献はもちろん、テニスを通じて関わるお客様のクオリティー・オブ・ライフの向上のお役に立てたら、と考えております。若輩者ですが、よろしくお願い致します。
トップインドアステージ多摩		
茅原 亘	プロフェッショナル2	はじめまして。岡山の遊プラザテニススクールの茅原 亘と申します。この度、10月のプロテストの結果、晴れてJPTAに入会させていただくことになりました。これからはJPTAのプロコーチとして、資格に恥じないレッスンを提供できるように、今後も学ぶことを忘れず精進していきたいと思ひます。よろしくお願い致します。
遊プラザテニススクール		
秋田 勇一	プロフェッショナル3	この度、JPTA認定プロフェッショナル3に合格させていただきました。私のテニスコーチとしてのスキルが認められたことを嬉しく思ひます。今後もテニス業界に良い影響を与えられるようなコーチになることを目指し、まずは1つ1つ出来る事を増やすため、日々勉強していきたいです。
株式会社テニスラウンジ明和		
三村 鷹哉	プロフェッショナル3	JPTAへの入会を機に、これまでよりもテニスの知識を身に付け、自分の中での目標であるジュニアの育成に励んでいきたいと思ひます。
ロングウッド長久手		

平成26年度年会費請求書送付方法について

平成26年度会費お支払いに伴い、年会費振替のご案内・請求書のご案内をさせていただきます。
各支払い方法によって振替のご案内・請求書のご郵送時期が異なりますので、ご確認をお願いいたします。
尚、4月末日までに協会にて入金の確認が出来なかった場合は、延滞金が加算されますので予めご了承ください。

■『三菱UFJニコス集金代行、振込のご対応の会員様』

3月末頃を目途にJPTA事務局より請求書をご郵送。

■『三栄収納サービス※集金代行のご対応の会員様』

4月上旬頃に三栄収納サービスより振替案内(はがき)を直接ご郵送。

※キャピタルシステムサービスが
社名変更致しました。

ご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせください。

平成26年度退会・会員種類変更の手続きについて

退会(JPTA、USPTA)、会員種類変更(シニア会員、ノンライセンス会員への変更)のお手続きにつきましては、
JPTAホームページの会員専用サイトにログイン後、各届出用紙のダウンロードをおこなってください。

【送付物 / 必要書類】

- ・申請用紙(記入・捺印済みの物)
- ・必要添付書類(認定証と会員カード)※シニア会員への変更の場合は返送不要

上記を揃えていただきまして下記期日までにご郵送をお願いいたします。

【提出期日】 平成26年3月31日(月)必着 (なるべくお早目の提出をお願い申し上げます)

【会員専用サイトログインID・PW】

ID : jptamember

PW : jpta1972A1 (全会員共通 / 全て半角文字)

※メール、FAXでの受付はできません。原本と必要書類のご郵送のみの受付となります。

おめでた

★ ご結婚 平成25年11月22日 山下 幸子 会員
赤坂 駿輔 さま

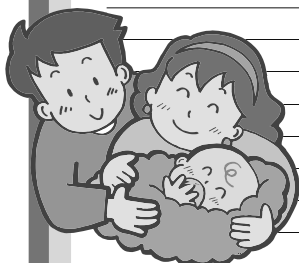
★ ご出産 平成25年4月11日 饗庭 大輝 会員
海空(かいあ)くん
平成25年5月30日 林 祐一郎 会員
怜菜(れな)ちゃん
平成25年6月1日 中川 正義 会員
暁(あきら)くん
平成25年6月19日 松尾 茂生 会員
萌叶(ほのり)ちゃん
平成25年6月27日 村上 暢寛 会員
晴海(はるみ)ちゃん
平成25年7月3日 萩森 裕紀 会員
悠菜(ゆな)ちゃん
平成25年8月6日 藤田 政頼 会員
真央(まお)ちゃん
平成25年8月7日 濱口 太一 会員
愛実(まなみ)ちゃん
平成25年10月10日 河村 祥臣 会員
優志(ゆうし)くん

おくやみ

平成25年9月14日 松山 忠司 会員 ご母堂 松山 マスエ さま
平成25年10月26日 中野 吉隆 会員 ご母堂 中野 幸子 さま
平成25年10月30日 榎本 進 会員 ご尊父 榎本 一郎 さま

慶弔申請方法

JPTA会員サイトより正会員慶弔届(PDF)をダウンロードし、
ご記入後JPTA事務局へJPTA事務所へ郵送してください。
尚、慶弔金の申請は発生日から3か月以内となります。



会員サービス委員会より お知らせ

JPTAでは、会員価格でのグッズの販売や
会員サービスを行っています。

JPTAロゴマーク入り ブリヂストンスポーツ オフィシャルボール

毎月末日締切：3か月後納品
(例：7月末締切 ▶ 10月 納品)



販売 会員価格にてご購入いただけます。



JPTAのぼり旗

3種：W600×H1800

現在は3種類での販売をしておりますが、「配色・文言」等会員の皆さまのお声を反映させていただき、今後は種類を増やしていく予定です。ご意見をお待ちしております。



JPTA (USPTA) マーク入りの名刺

1セット100枚入り

※保持資格により
異なります。
※準会員様用名刺も
ございます。



2014年度 JPTAヨネックス オフィシャルウェアについて

商品の発送：2014年11月下旬～12月上旬予定
ウェアデザインのご案内 / 受付開始：7月下旬予定

JPTA名刺 印刷受付のご案内 (1セット100枚入)



※イメージ：JPTA/USPTA資格取得会員の場合

< 注意事項とお願い >

- ・印刷は片面のみとさせていただきます。
- ・受付は、セット購入の場合のみとなります。
- ・フォーマットが決まっておりますので、注意事項をご確認の上、ご注文いただきますようお願いいたします。
- ・校正の確認をしていただくためメールアドレスは必須です。
※但し、校正の回数は1度のみとし、FAXでの校正確認は対応致しかねます。
※増刷 (修正がない場合のみ) は、事務局までご相談ください。
- ・項目が多く、記載が難しい場合は、事務局よりご提案・ご相談させていただきます。また、在庫状況により、お時間をいただきます。予めご了承ください。

※ 詳細は協会ホームページ会員サイト オフィシャルグッズ⇒「名刺台紙」⇒名刺印刷のご案内を必ずご覧ください。
※ 印刷受付を平成25年6月より開始いたしました。

【購入について】 必要事項をご記入の上、事務局までFAXしてください。
申込書は協会ホームページよりダウンロードしていただけます。

※ 別途送料が必要となりますので
ご了承ください。

【その他】

- 慶弔見舞金制度により見舞金を受けることができます。
(③入院以外のご要望により会報掲載もさせていただきます。)
- ※ 発生日より3ヵ月以内(③入院は退院日より3ヶ月以内)の申請が必要となります。
申請書は、ホームページにてご案内しております。
- ①結婚祝い金 (20,000円)
- ②出産祝い金 (第1子：10,000円、第2子以降：5,000円)
- ③入院 (10,000円)
- ④会員死亡 (100,000円)
- ⑤親族死亡 (弔電)

- JPTAホームページ上に写真とプロフィールを公開することができます。
※詳しくは協会ホームページ会員サイト (各種申請手続き・コーチ・スクール情報更新) より更新申請をお願いいたします。
 - JPTA主催のセミナー、イベント、コンベンション等に会員価格にて参加することができます。
- その他、テニスに関する保険や共済制度、JPTAオフィシャルスクールの名称使用など (要申請・認定)、多数ご用意しております。
詳しくは、JPTA事務局、もしくは協会ホームページにてご確認ください。

コーチ紹介のページに 皆様の活動内容を掲載しませんか？

掲載申請をされていない方は、是非この機会にJPTAホームページをご活用ください。
現在、掲載されている方は、掲載を今一度確認いただき最新情報のご申請をお願いいたします。

コーチ紹介

詳細はJPTA
ホームページより
ご確認をお願いいたします。
変更は会員サイトより
ご申請いただけます。



《所属先》

現在のご勤務先をお知らせください。

《プロフィール/フリーコメント》

自己紹介・現在の情報等 会員様で自身で自由にコメントいただけるスペースです。
文字数：～300文字（目安）

《心がけ・モットー》

レッスン時に心がけている事や、モットー、あなたのコーチとしてのポリシー等をお知らせください
文字数：～300文字（目安）

《その他の資格エリア》

JPTA、USPTAの資格以外に他団体の資格などを記載いただけます。

その他：委員アイコン：役員・地区長・委員・テスターなどのJPTAの活動役職が表示されます。

《顔写真》

ご自身の顔写真を下記メールアドレスに添付(JPEG)して事務局までご送付ください。
※必ずフォルダ名に会員番号とお名前をご記載ください。

《ご提出方法》

データの添付ファイル名/フォルダ名には必ず「会員番号・お名前」をご記載ください。

【ご提出先】 jpta-info@jpta.or.jp

スクール紹介

掲載の申請をいただいた会員様のスクール情報を公開しております。
掲載申請をされていない方は、是非この機会にJPTAホームページをご活用ください。
現在、掲載されている方は、内容を今一度ご確認いただき最新情報の更新をお願い致します。

詳細はJPTA
ホームページより
ご確認をお願いいたします。
変更は会員サイトより
ご申請いただけます。



《スクール紹介》

スクール名・住所・連絡先・スクールホームページ：URLをお知らせください

《スクール紹介》

スクールの特徴等をお知らせください
文字数：～300文字（目安）

《所属会員》

在籍する会員様のご申請をお願いいたします。

《スクール写真》

スクールの写真を下記メールアドレスに添付(JPEG)して事務局までご送付ください。
※必ずフォルダ名に会員番号とお名前をご記載ください。

《ご提出方法》

データの添付ファイル名/フォルダ名には必ず代表者様の「会員番号・お名前」をご記載ください。

【ご提出先】 jpta-info@jpta.or.jp

※会員サイトパスワード・IDはP35をご覧ください。
※JPTA会員様専用ページ【各種申請手続き】よりご申請いただけます。



FACEBOOK 始めました。

イベントやお知らせを中心に画像と共に皆様へ情報発信しております。
配信メールと合わせてご活用ください。
また、情報のご提供も受け付けております。
事務局までお問合せください。

JPTA HOT NEWS ～協会情報メール配信サービスのご案内～

登録
受付中

出来るだけリアルタイムな情報を会員の皆様へお届けするメール配信サービス (JPTA HOT NEWS) をご希望の方はJPTAホームページ会員サイトへログインしていただき、下記登録フォームからメールアドレスをご登録お願いいたします。

※メール配信の利用料は無料ですが、インターネットの利用に伴う通信料は会員様負担となりますのでご了承ください。
(配信は不定期となります)

送信者

パソコンの場合
携帯の場合

【公益社団法人 日本プロテニス協会】
【jpta-haishin@jpta.or.jp】

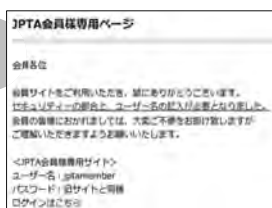
1 JPTA協会ホームページへアクセスください



2【拡大】JPTA会員様専用ページをクリック



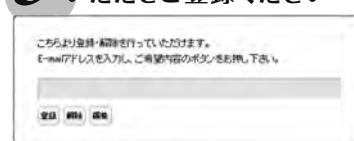
3



4【拡大】クリック



5 登録アドレスをご入力 いただきご登録ください



JPTAホームページ 会員専用サイト

求人広告掲載受付中

ホームページの会員専用サイトに求人広告を掲載することができます。ご希望の方は下記項目をメールにてお送りください。

また、年2回の発行となりますJPTANEWSの人材募集コーナー (有料) も併せてご利用ください。

ご不明な点がございましたら、JPTA事務局までご連絡ください。

《 原稿送信・問合せ先 》 広報委員会 事務局担当まで
e-mail : jpta-info@jpta.or.jp

メールの件名に「会員専用サイト求人掲載」とご入力ください。尚、原稿はお送り頂く前に、ご一報を頂けると幸いです。宜しくお願い致します。

求人広告掲載内容詳細

【求人広告掲載事項】 会員専用サイトに掲載される項目です。

- ・会社名 (クラブ名)
- ・勤務地
- ・職種
- ・応募資格
- ・待遇
- ・問合せ先 (担当者名含む)

【掲載期間】 1か月

掲載の延期または期間内の掲載取り下げの際はお申し出ください。掲載はご申請頂いた日から作業の都合上、3日～5日のお時間を要する場合がありますのでご了承ください。

【掲載料】 無料 (当面は無料で掲載となります)



事務局長就任のご挨拶

皆様、明けましておめでとうございます。

この度、11月より事務局長として入局致しました向山 潔です。

永年テニス界にはお世話になってきたとはいえ、事務局業務に不慣れな為、ご不便をお掛けしていることも多々あるかと存じます。着任およそ3ヶ月、あわただしく過ごす中で、少しずつ慣れてきたところではありますが、まだまだ未熟な点を反省しております。一方で、過日開催されたコンベンションにも参加させていただき、お顔見知りの方も多く、いささか心強くも感じた次第です。

今後は、特に会員の皆様をはじめ、事務局内でもコミュニケーションを大切に、業務の質的向上を目指す所存でございます。皆様に喜んでいただけるよう、事務局員一同、力を合わせてより質の高いサービスの提供、協会運営を心掛けて参りますので、どうか今後ともより一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

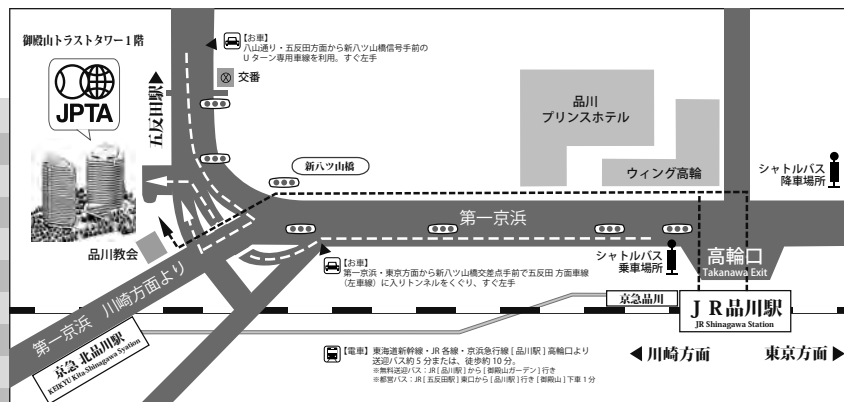


事務局紹介

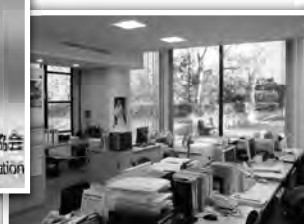
明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。
JPTA事務局は、JR品川駅より徒歩約10分、無料送迎バス約5分の御殿山トラストタワー1階です。お近くにお越しの際は是非、お立ち寄りください。
事務局員一同お待ちしております。
また、2013年10月より新しい仲間が増えました!! どうぞよろしくお願いいたします。

■ 担当業務・お問合せ先

資格認定講習会委員会	森
プロテスト委員会	森
ポイント制度	土谷
資質向上委員会(セミナー)	土谷
新資格検討委員会	森
ジュニア育成委員会	飯泉・森
プレーヤー委員会	米津
国際・国内大会委員会	神山
オフィシャルスクール・後援委員会	土谷
広報委員会	米津
コンベンション委員会	神山
テニスの日委員会	米津
地区会委員会	土谷
安全管理委員会・スクール共済	桑嶋
公認・推薦・賛助委員会	ヨネックス・ゴーセン：神山 グローブライド・ブリヂストンスポーツ：飯泉
会員サービス委員会	ヨネックス・ゴーセン：神山 グローブライド・ブリヂストンスポーツ：飯泉 その他物販：のぼり旗・名刺等：米津
倫理委員会	土谷
新規企画委員会	鈴木



▶住所 〒140-0001
東京都品川区北品川4丁目7番35号 御殿山トラストタワー1階
TEL：03-5791-1965 / FAX：03-5791-1966



● JPTA 公認企業・公認商品

積極的に利用し、生徒さん等関係者におすすめください。

ラケット	----- Prince	----- グロープライド株式会社
ウェア	----- YONEX	----- ヨネックス株式会社
ボール	----- BRIDGESTONE	----- ブリヂストンスポーツ株式会社
ストリングス	----- GOSEN	----- 株式会社ゴーセン

● JPTA 推薦企業

大塚ターフテック株式会社

● JPTA 賛助企業

JPTAは下記の企業の賛助を受けています。

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| ・あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 | ・有限会社リックスコミュニケーションズ |
| ・株式会社ダンロップスポーツマーケティング | ・株式会社ゴールドウイン |
| ・株式会社ヤマハリゾート(つま恋) | ・株式会社ナイキジャパン |
| ・東京ウエルネス株式会社 | ・ミズノ株式会社 |
| | ・スポーツサーフェス株式会社 |

● 編集後記 ●

皆様、新年明けましておめでとうございます！そして、200号記念版はついに念願のフルカラーでお届け致しましたが、いかがでしたか？

予算の関係で全ページカラーにはできなかったのですが、やっぱりカラーはいいですね！

200号記念企画として、増田副会長や平野元副理事長に登場して頂けたのがとても嬉しかったのですが、皆様のご協力のもと、最近内容がギッシリ！なのがまた嬉しい限りです。今年も編集部一同、頑張っ
て参ります。よろしくお願い致します！

編集長：金丸 由紀

皆様、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

200号という記念すべきJPTANEWS特別号の作成に携われた事は、大変貴重な経験になりました。
ありがとうございます。これからも250号を目指して、心を込めて皆様に愛されるJPTANEWSを作成
したいと思います。今後も皆様のご協力をどうぞよろしくお願い致します。また、ご意見・ご感想もお待ち
しておりますのでよろしくお願い致します。

米津 瑠美